

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県扶桑町

自治体名：扶桑町

担当課名：生涯学習課・学校教育課

電話番号：0587-93-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	11.19km ²
人口	34,872人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	971人
部活動数 (運動部活動のみ)	20部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

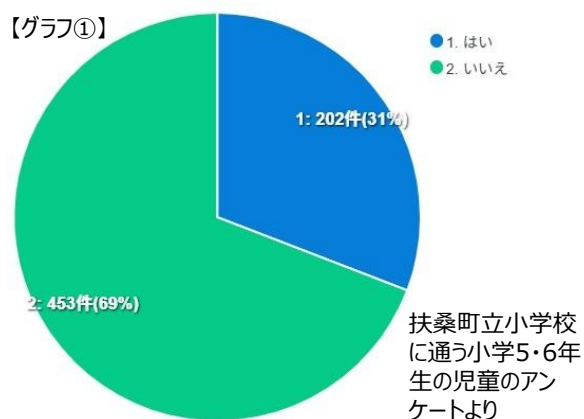
中学校の生徒数は減少傾向にあり、中学3年生1学年の人数をみると、令和6年度の317人に対し、令和9年度では307人、令和14年度では295人にまで減少する見込みである。

令和7年度の部活動は、運動部が13種目（20部活動）あり、部活動加入率は約90%といまだ高い状態だが、運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができず、合同チームを組んで大会に出場する種目もある。また、種目によっては専門的に指導をすることができる顧問がおらず、初心者状態で指導に当たらなくてはいけない教員も少なくない。

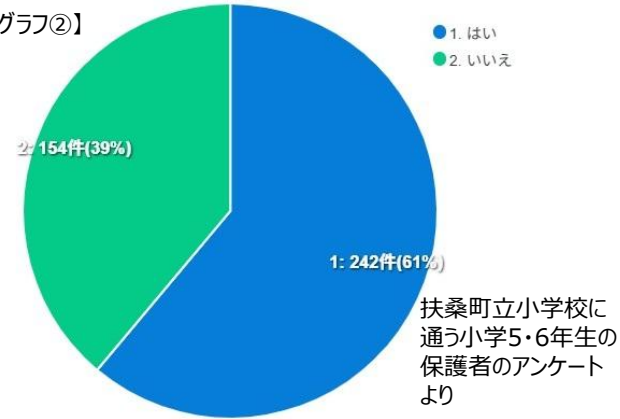
課題としては挙げられるのは、専門的に指導をしていただける地域の指導者の確保と、その指導者の質の担保である。また、運営主体となる総合型地域スポーツクラブと教育委員会の連携方法や、持続可能な形にしていくための財源確保が大きな課題となってくる。

その他にも、中学校教員や生徒たち、その保護者について、部活動展開に関する周知がなかなか難しい。下記の【グラフ①・②】は「今後、中学校部活動が少しずつ地域に展開（移行）され、令和8年度の夏以降、休日の部活動は行わず、地域クラブでの活動になることは知っていますか？」という質問のアンケート結果である。小学5・6年生の児童は三分の二は知らない、保護者についても三分の一は知らないという状態である。

【グラフ①】



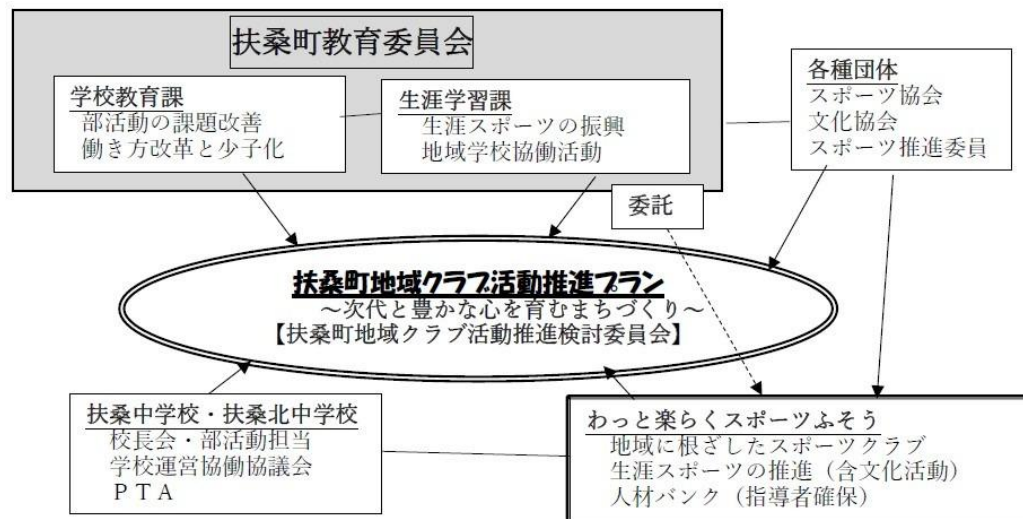
【グラフ②】



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



出典元：扶桑町教育委員会

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・中学校や校長会との連携。
- ・部活動の地域移行における学校の整備体制の検討。
- ・指導者研修会の企画運営の補助。

◎教育委員会（生涯学習課）

- ・補助金申請等
- ・地域クラブ活動推進検討委員会の実施、運営。
- ・統括コーディネーターを中心に、部活動地域移行連携に向けた調整、マネジメント。
- ・統括コーディネーターを中心に、指導者研修会の企画運営。

◎総合型地域スポーツクラブ

- ・運営全般

年間の事業スケジュール

4月 ・地域クラブ「ランニングクラブ」スタート。（教職員の兼職兼業スタート）・部活動地域移行連携に向けて取組む部活動を全種目に広げる。・第1回指導者研修会を実施。・町の広報にて、部活動地域移行連携について地域の理解を促す。

5月 ・顧問、地域指導者、統括コーディネーターが集まって、各種目ごとに移行について協議。（～7月）・土日部活動指導員に任せし、顧問と地域指導者と連携をして指導体制を確立。・人数が少ない種目については2中学校で合同部活動、また合同練習等を繰り返し、地域クラブを意識した活動を実施。

6月 ・小中学校の児童生徒、その保護者を対象に部活動地域展開に関するアンケートを実施。

7月 ・夏季休業中の土日の部活動を実施可能とし、部活動指導員の指導を継続。その代わり、平日の練習を縮小。・第1回地域クラブ活動推進検討委員会を実施。

8月 ・第2回指導者研修会を実施。・教員向けの部活動地域移行連携についての説明、協議。・新チームがスタートする種目から、地域移行に向けた地ならしとなる活動を実施。

9月 ・ランニングクラブと町の愛知駅伝事業との連携を実施。

10月 ・文化協会と協力体制を組み、生徒の文化的な活動への参加の環境整備を検討、団体の会合にて行政説明。

11月 ・教職員に向けた兼職兼業の希望調査。・人材バンク登録者に向けて地域クラブ活動の指導者の意向調査。・近隣私立高校との連携のため、職員会にて行政説明。

12月 ・第3回指導者研修会を実施。・地域クラブ活動の種目公表。

1月 ・地域クラブ活動の種目の詳細を公表。

2月 ・第2回地域クラブ活動推進検討委員会を実施。次年度への活動について具体的に検討。

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	0クラブ（0部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	1クラブ	
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ランニングクラブ	総合型スポーツクラブ	中・長距離走	- 平日0回 - 休日1回	8:00～10:00	小学1年1名 小学2年4名 小学3年5名 小学4年10名 小学5年5名 小学6年12名 中学1年2名 中学2年2名 中学3年3名	年間	3人	2人	年会費 2,000円 1回500円	大会参加は 中学校から各自で参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

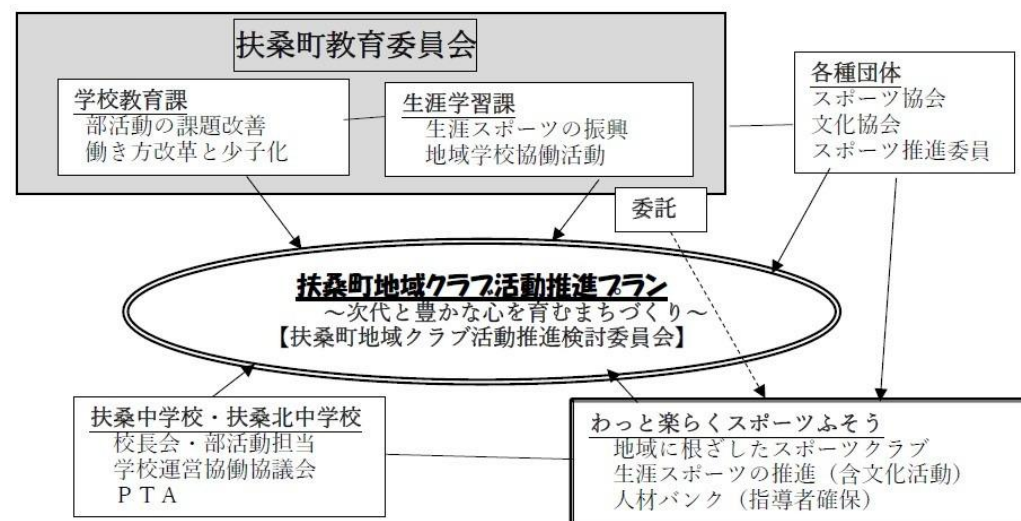
2.実証内容と成果

主な取組例

●ランニングクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	中・長距離走
運営団体名	総合型地域スポーツクラブ わっと楽しくスポーツふそう
期間と日数	月3～4回程度
指導者の主な属性	町内小中学校の保健体育科教員
活動場所	扶桑町立扶桑北中学校のグラウンド・外周
主な移動手段	保護者の送迎・自転車
1人あたりの参加会費等 (年額)	年会費2,000円 1回500円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



出典元：扶桑町教育委員会

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 扶桑町教育委員会（学校教育課）
役割：全体的な計画、調整。中学校との調整。総合型地域スポーツクラブとの調整。
- 扶桑町教育委員会（生涯学習課）
役割：補助金申請。施設予約等の調整。総合型地域スポーツクラブとの連絡調整。
- 総合型地域スポーツクラブ「わっと楽しくスポーツふそう」
役割：運営主体としての指導者への報酬支払。参加者の申込受付等の業務。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

地域クラブ活動を実施する上で生じる課題を把握し、適切に解決するための地域クラブ運営マニュアルを作成するため、学校と行政、運営団体、地域指導者等の連絡調整を担う統括コーディネーター1名を配置する。統括コーディネーターは年2回の連絡協議会を開催し、地域クラブ運営上の課題等について協議する場を設ける。また、各クラブ活動を月1回程度巡回し、活動状況の把握や運営や活動上の課題の整理を行う。令和7年度は令和8年度の夏季休業から本格化する地域クラブ活動の地ならし期間とし、両中学校の各部活動で顧問・地域指導者を中心に実施体制について協議を重ねる。

地域クラブへの移行に向けて、令和6年度よりアプリを利用し、スケジュール管理・出欠席管理・個人情報を必要としない連絡ができるようになっている。

取組の成果

ランニングの地域クラブ活動を試行的に実施し、運営マニュアルの資料となる実践ができた。また、そのランニングクラブをコーディネーターが視察することで、児童生徒や保護者が部活動としてではなく、地域クラブ活動として参加することでの違いについて把握し、課題を確認できた。

令和8年度の夏以降で本格化する地域クラブ活動の地ならしとして休日の活動を地域指導者にお任せすることで、教員ではない指導者が生徒と関わることで起こる様々な調整があることを確認できた。その調整のたびに、中学校の顧問と指導者がICTツールを活用して連絡を取り、解決する等の好事例もできた。

今後の取組における課題

ランニングクラブを試行したことで、指導者の準備が想定よりも大変だったことが分かった。物品の管理や出欠確認、安全確保等の面で指導者の負担が大きい。

地ならしとして地域指導者に休日の部活動の指導をお任せすることができた種目は多いが、まだまだ教員が手放せていない種目も多かった。それにより、生徒も教員も地域指導者も、種目によって地域クラブ活動への移行の意識に差ができてしまった。

確定できる情報が少ないため、保護者や地域の方々への周知に課題が残った。不安が広がっている様子もある。

課題への対応方針

物品の管理については、今後中学校との連携を密に行い、保管方法を検討していく。また、出欠確認や安全確保等はICTツールの更新が行われたことで機能が増え、今後は対応が可能と想定している。

教員への理解を促進するために、4月当初に全職員へ説明を行ったり、顧問との面談を行う等し、教員と地域指導者が協力をして、今後の地域クラブ活動を創っていくことを何度も確認していく。

保護者や地域の方々への周知を目的として、自治体のホームページに特設ページを作り、情報発信をこまめに行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターはランニングクラブの練習を視察し、時には指導者の手伝い等を行うことで、客観的に見ることは気づくことのできない課題を確認できた。また、その場で修正できる課題であれば指導者に都度伝え、改善を行った。そうすることで、保護者や参加者の心理的安全性を確保し、20人程度が常に参加する地域クラブ活動となった。

令和8年度の夏以降に地域クラブ活動へと移行する種目の部活動にも何度か視察をし、地域指導者や顧問の意見を集約し、教育委員会担当者へ報告することで、環境づくりの一端を担っている。

県が主催する協議会へも参加し、企業や他市町との繋がりも作った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

地域クラブ活動への入会等については、フォームを作成し、その連絡を小中学校で活用している出欠席・連絡アプリを通して、全保護者へ伝えた。また、出欠席確認や急な悪天候による中止連絡等は、すべてアプリで済ませることにより、運営側も実施側（指導者）も手間なく共有ができた。

なお、安全性確保に向けて、運営主体の総合型地域スポーツクラブと教育委員会が密に連携をとって、安全性確保に努めている。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

活動中の事故等の対応について、管理責任は運営主体となる総合型地域スポーツクラブとなり、教育委員会の担当者も含め、その子どもが通う学校と連携しながら、対応を進めるようにしている。

また、事故等が発生した場合には、連絡用アプリを活用して、保護者へ連絡し、迎えに来てもらうように態勢を整えている。どうしても連絡がつかない場合は運営主体となる総合型地域スポーツクラブに個人情報を保管しているため、そこを介して保護者に連絡を取るようにしている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

総合型地域スポーツクラブで立ち上げた人材バンクに集まった指導者に各中学校の指導に入ってもらっている。地元で根付いた指導者の確保がおおそそできているが、一部兼職兼業教員が担っている。また、中学校3年生で引退した生徒の希望者が継続して地域クラブに参加できるような環境を整えることについては、令和8年度より実施できるよう調整中である。

指導者の質の向上を図るため、救急救命士等による救命講習や部活動地域展開・連携を担当している指導主事による研修等を年3回開催した。また、その際に横のつながりを作るために情報交換等を実施した。

取組の成果

人材バンクの活用により、地元で根付いた指導者から教えてもらうという体制を整えられた。令和7年度に立ち上げた地域クラブ活動とは別に、部活動に指導に入って令和8年度に地域クラブ活動となった後も指導を続けていただく方も増え、中心として指導をする方は令和6年度の12人から20人に増加、また補助として指導に入ってもらった方も30人を超えた。

指導者の資格が確保される人数が増えたかどうかについては不明だが、研修会後のアンケートで、「令和の子どもたちとの関わり方についてもっと知りたい」という意識向上の様子が見られた。

今後の取組における課題

今までの部活動というイメージから脱却し、地域に根付くスポーツ・文化芸術活動の「新しい価値」の浸透が大きな課題だと感じている。また、指導者の方々はとても熱心に指導をしていただけるが、大人が導いてあげる形の指導となるため、主体性を伸ばす等の教育的意義の継承が課題と感じる。

さらに、中学3年生で引退した生徒の参加について、地域クラブ活動に参加する際に、受益者負担とするかどうかについても検討をする必要がある。

課題への対応方針

年に何回か研修を続けていくことに加えて、その内容を充実させることが対応策としてよいと感じている。教育的意義については、子どもとの関わり方の事例を取り上げ、その対応方法について指導者同士で協議したり、実践された指導者の講話をしたり、自分事として感じてもらえるような内容にしていきたい。

中学3年生で引退した生徒の参加については、今後実証事業を行い、アンケートもして声を聞いた上で決定していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

近隣の高等学校との連携を進めている。地元で根付く環境を整える際、進学先として挙げられる高等学校から指導者を派遣していただいたり、高校生との合同練習をしたりする等、交流を深められるような環境を整えていきたい。

また、地域のスポーツ少年団と密に連携を取り、ボランティアとして地域クラブ活動に関わっていただける方を募る等、保護者や地域の方々が多世代にわたって関われるような人材確保を進めている。

指導者研修の内容

研修名	部活動指導員等研修会（年3回実施）
講師	教育委員会指導主事・コーディネーター
研修内容	- 中学生世代の特徴等を踏まえた指導の在り方や保護者対応等に関する研修（事例検討を通して） - 活動中の安全確保について - 人権を考えたチーム運営や支援の方法について（暴力・暴言・スポーツハラスメント等の防止等） - ICTツールの使用方法について - 意見交換（指導者同士の交流）

指導者研修受講者の声

<感想>

- ・ 子供達に改めて、スポーツや運動、集団、個人での覚える、学ぶ、楽しく向上する大切さを感じました。価値観がそれぞれに違うことを改めて感じました。
- ・ 子供との関わり方について改めて学びました。
- ・ これからのクラブ活動運営を考えていく機会になった。
- ・ ルール遵守とチームとしての最適な判断力と選手の技量の見極めが大切だということを知りました。
- ・ 何の為の部活動かについて、教育、競技の倫理、どちらを重視するかで部活動運営が変わって来る事を学びました。
- ・ 「競技の論理」と「教育の論理」のバランスが重要だと感じた。生徒一人一人でこのバランスは変わると思う。

<研修で実施してほしいこと>

- ・ 指導者講習会や環境整備は順調だと思いますが、大会運営の方法、現在の地域移行の状況が、学校側、顧問の先生方にあまり伝わっていないように感じますのでうまく情報共有ができるといいです
- ・ 他の指導者も連携や練習について悩んでおられると思います。その悩みや成功体験等を共有できたら分かり合えるかもしれません。
- ・ 令和の中学校の部活動の教育方法を教えてほしい。それにならいつながら進められるとトラブルが減少するかもしれません。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

検討委員会のメンバーにスポーツ協会やスポーツ推進委員会の委員等にも参加していただき、連携を強めている。そこで出た意見をもとに、修正を行いながら、検討を進めている。

また、地元根付いた文化協会があり、中学生等が参加可能な文化協会の教室に協力していただき、受け入れができるように調整中である。

取組の成果

文化協会には多くの団体が所属しており、春や秋に実施される音楽祭や文化祭で発表をしている。そのため、中学生もその団体に参加させていただき、発表の場で多世代にわたってステージで活躍してもらえるような環境を整えたいと進めている。文化祭が終わった後の会合にお邪魔し、そこで説明したのち、受入れ可能かどうかのアンケートを実施した。10団体から受け入れ可能との回答があり、現在調整中である。

今後の取組における課題

文化協会との連携で大きな課題となるのは、活動時間である。

文化協会の団体はほとんど高齢の方々と構成されており、今までの活動時間は平日の昼間となるが多かった。しかし、中学生を受け入れるにあたり、活動時間を平日の夕方か、休日になるように変更をお願いすることとなる。10団体に手を挙げていただいたことは大変ありがたいが、その調整をお願いするにあたり、相談をしていく必要がある。

課題への対応方針

すべての団体と一つ一つ相談をし、どのように変更が可能かを話し合い、調整を進めていくことが必要だと感じている。

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

参加者が多く集まることを想定した上で、スポーツ保険やアプリ運営費等の最低限必要な費用を受益者負担として徴収し、運営していった。また、その費用が妥当かどうかを令和7年度に検証し、令和8年度に繋げる。

検討委員会で意見を聞いたり、中学校の入学説明会で担当が説明も行って質問窓口を設置したりすることで、部活動地域展開について保護者や地域の理解を深めてもらえるよう努めた。

取組の成果

費用については安価な状態で令和8年度に実施したかったが、運営上持続可能な形になるようにするためには、年会費を上げる必要があるということが判明したため、年会費のみ上げるという結論となった。その実証実験ができたため、ランニングクラブの地域クラブ活動の実践内容は大変参考になった。

今後の取組における課題

現在、総合型地域スポーツクラブが運営主体となって、地域クラブ活動を立ち上げる計画で進めているが、すでに総合型地域スポーツクラブにある教室とどう分けて、どう連携するかということが大きな課題である。

実証事業としてスタートしたランニングクラブでの課題をもとにしたいが、種目ごとでまったく内容が異なるため、その課題が明確にならない部分も多い。実際にやってみないとわからないということが多いため、不安が大きい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

今後の取組における課題

現在、総合型地域スポーツクラブが運営主体となって、地域クラブ活動を立ち上げる計画で進めているが、すでに総合型地域スポーツクラブにある教室とどう分けて、どう連携するかということが大きな課題である。

実証事業としてスタートしたランニングクラブでの課題をもとにしたいが、種目ごとでまったく内容が異なるため、その課題が明確にならない部分も多い。実際にやってみないとわからないということが多いため、不安が大きい。

課題への対応方針

随時、指導者や運営主体となる総合型地域スポーツクラブと連携をしつつ、明確になった課題を一つ一つ話し合っ解決していくほかに方法はないと感じる。

中体連の大会にどう参加するかという話題にもなるため、その情報も注視しつつ、どのような状況になっても対応ができるよう、幅広い考えのもと計画を立てていくことが対応策として挙げられる。

収支バランス

ここにあがっている収支については、地域クラブ活動として実施したランニングクラブのみの内容であるため、ここに示されない部分も多くある。例えば、すでに総合型地域スポーツクラブで購入していて、兼用をしているものは備品として新たに買っていないものもある。しかし、今後すべての種目で地域クラブ活動が実施された場合は、備品として購入するものは多くあることが予想されるため、年会費を上げる必要があると判断した。

●収入（単位：円）

項目	費用	割合
公費	0	0%
事務局運営費	433,000	100%
合計	433,000	—

●支出（単位：円）

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	269,430	98.7%
諸謝金（指導者）	144,000	53.4%
会場使用料	0	0%
消耗品費	0	0%
印刷製本費	0	0%
アプリ使用料	33,880	12.6%
交通費	46,800	17.4%
生徒保険料	39,200	14.5%
指導者保険料	5,550	2.1%
事務局運営費	3,410	1.3%
謝金	0	0%
会場使用料	0	0%
スポーツ教室開催費	0	0%
保険料	0	0%
人件費	0	0%
交通費	0	0%
印刷製本費	0	0%
消耗品費	0	0%
備品購入	0	0%
通信運搬費	0	0%
修繕料	0	0%
振込手数料	3,410	100.0%
一般管理費	0	0%
消費税相当額	0	0%
合計	272,840	100.0%

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

保護者・児童生徒のニーズを確認するためのアンケートを6月に実施した。対象学年は、小学校5・6年生、中学校1～3年生である。また、児童生徒の代表者の話し合いの場を設けることを検討したが、実施時期が定まらず断念し、11月に新たに提示した方針をもとに意見集約だけ行った。

地域クラブ活動では、幅広い世代が参加できるように参加者の制限を広げ、保護者や地域の希望者が見守っていただけるような環境を整え、実施している。種目ごとに顧問・地域指導者・統括コーディネーターで集まることは難しかったため、実施できていない。

取組の成果

大きな成果としては、小学5・6年生や中学1・2年生の児童生徒はそもそも「部活動の地域展開について知らない」という子どもの割合が多いことが判明したことである。小学生は約70%、中学生は60%が知らないというアンケート結果だったため、そこから広報をより強化した。

地域クラブ活動にボランティアとして子どもの見守りに来ていただける方が数名いて、扶桑町の事業として駅伝に参加しているため、その事業との連携がよい形で継続できている。

今後の取組における課題

アンケートについて、計画段階では2回行う予定だったが、子どものみの意向調査を行ったため、そちらを代替とした。

実証実験として行った地域クラブ活動のランニングクラブでは、ボランティアの方々も一緒に子どもたちと活動をしているが、12月の駅伝事業が終わると人数が減ってしまった。継続した参加をしていただけるようにすることが課題である。

課題への対応方針

参加人数が多くなれば、その人数によって大人の人数も増やす必要がある。しかし、指導者の人数も限られているため、子どもたちのニーズにどこまで応えるべきかの検討を今後重点的に進めていく。

また、ランニングに限らず、今後はすべての種目が地域クラブ活動となるため、その移行後でアンケートを実施し、保護者や児童生徒の意見を集約して、今後の方針を固めていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設について、基本的に部活動で使用していた環境を継続していく予定である。また、今までは学校管理下であったため鍵の管理は学校であったが、合鍵を指導者に渡して、施設を利用できるように整えた。今後はスマートロックを補助金を利用して設置を考えているが、令和8年度の設置はできるかどうか調整中である。

課題への対応方針

ランニングクラブで雨天で中止とならないように、体育館も同様の時間で使用できるように整えていく必要がある。しかし、今後すべての種目が地域クラブ活動として実施した場合、どこまで確保ができるかは検討する必要がある。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

平日の夜間の実施ができたなら実施をする予定だったが、指導者の調整が難しく実施ができなかった。

今後の取組における課題

ランニングクラブの実証実験の中で、雨で中止されるということが多くあった。そのため、継続した指導ができない時期もあった。

取組の成果

地域クラブ活動としてランニングクラブを試行してみた結果、学校との調整うまく進めることができ、日曜午前をランニングクラブとしてグラウンドと外周を年間通して利用させていただけることができた。そのため、時間が固定されていて、指導者の予定を立てやすくなったことも成果の一つである。また、保護者もその場で見ていることができるように駐車場も用意した。そのため保護者も見守りとしていただけるのはよかった。

今後の取組における課題

平日の夜間となると、すでに小中学校の体育館で開放となっているため、他団体と交渉を進めることが必須となる。そのため、場所がないというのが現状。

課題への対応方針

今後は学校が終わった17時から体育館の開放が始まる19時までの時間を利用して、地域クラブ活動でできるように調整をしていく予定である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

目標として掲げていた内容とあわせての総括は以下の通りである。

- ・ 教員の部活動指導にかかる勤務時間が前年度より減少傾向となった。地域指導者の取組内容によって種目で差はあるが、年間通して月5、6時間の減少となった教員もいる。
- ・ 地域クラブ活動への生徒の参加について、保護者の理解が深まったかどうかについては今後の課題となった。いろいろな場で説明を行うが、参加された保護者はわからないという意見が多い。今後も広報に力を入れていく予定である。また、児童生徒についても部活動のイメージが大きいため、地域クラブ活動へ意識が向くことはなかなか難しい。ただ、ランニングクラブは平均して30人程度の参加があるため、今後に期待をしていきたい。
- ・ 運営の実施が主体となる総合型地域スポーツクラブの年間活動収支について、継続可能な金額設定が見込めるようになるという点については、アンケート結果も参考に進めたが、未知の部分が多いため、今後の実践で調整を進める。
- ・ 地域クラブ活動の指導者が継続して指導に当たれるような環境整備ができるよう努めたが、種目ごとで差はある。

●成果の評価

ランニングクラブの実証事業を行ったことで、どのような収支があるのか、どのような年代が参加するのか、具体的に指導者はどこまで運営に携わるのか、等の実態が明確化できたため、その内容をもとに令和8年度の夏以降の地域クラブ活動の開始に備えることができた。また、初めて行う事業のため、保護者としては見学会の実施の希望が多いことも分かった。それを踏まえて、中学校と連携して見学会の実施を計画できた。さらに、情報が少なすぎるという声が多いため、それぞれの種目の概要をまとめたチラシのようなものを作成する方向で打ち進める等、準備が必要な内容は何かを明確にできた。

さらに、熱中症の危険性も改めて確認ができた。ランニングクラブの活動中に熱中症が起きた際、今までの部活動とは違い、保健室が使用できないことを改めて確認ができ、体が小さい小学生が体力を回復させることができる日陰の必要性を指導者に周知した。

●今後に向けて

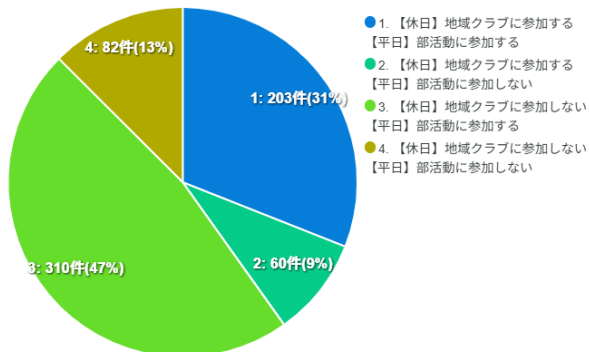
扶桑町としては、令和8年度の夏以降、新チームがスタートするタイミングで、2中学校に存在する部活動のすべての種目において、地域クラブ活動を開始する予定である。そのため、令和7年度に地ならしの意味も含めて、中学校の教員や地域指導者と連携しながら理解を深めてきた。今後、教員がどこまで地域指導者と連携して進めていくかという点において、多くの課題が明確になると予想されるため、ICTの活用を基本として、連絡が取れるような環境を整えていきたい。また、指導者への研修においても学校教育という視点のみならず、生涯学習としての視点も取り入れ、地域に根付く実践となるように指導者の質の担保もしていきたい。

2.実証内容と成果②

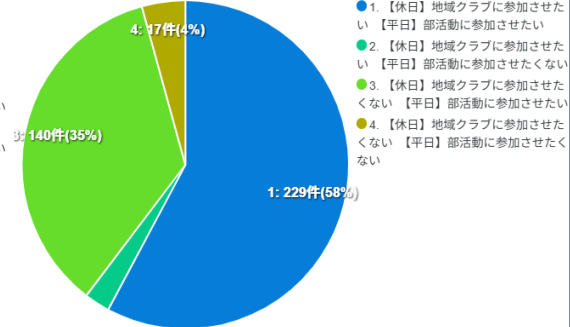
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（小学5・6年生の児童と保護者が対象）

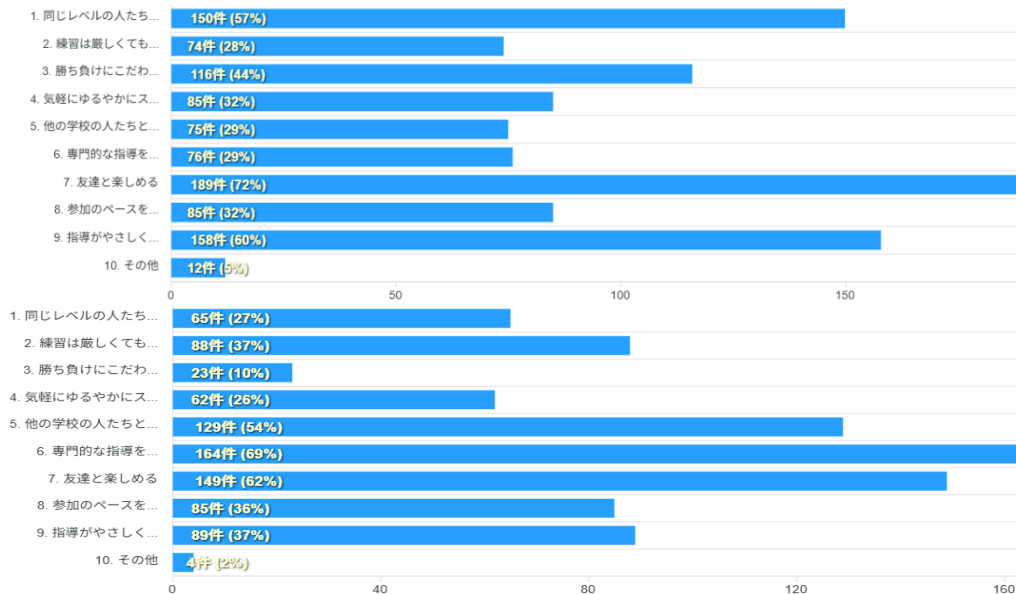
Q.休日の部活動が地域クラブに展開した場合、参加しますか。（児童）



Q.休日の部活動が地域クラブに展開した場合、お子さまを参加させたいですか。（保護者）



Q.地域クラブにどのようなことを求めますか。（上段：児童 下段：保護者）



●参加者/関係者の声

地域クラブ活動に参加している保護者

ランニングクラブに参加して楽しそうに走っている子どもの姿を見るのが嬉しい。ぜひ、中学を卒業してもこの環境を継続してもらいたい。

地域クラブ活動の指導者（兼職兼業教員）

地元の子どもたちを教育という視点ではなく、楽しむという視点で指導するのは楽しい。呼び方もあだ名で呼び合うという空気感を作っている。

地域クラブ活動の指導者（兼職兼業教員）

部活動の顧問との両立のため、なかなか大変な時もあった。練習メニューを作ってくれる指導者がいるので助かるが、熱中症が原因でヒヤツとする場面もあったため、安全確保が今後の課題だ。

検討委員会に参加した保護者

何を言っているのかがわからない。今後、どんな変化があるのか明確にしてほしい。お金を払うのであれば、どんな価値がそこにあるのか細かく説明してほしい。

出典元：扶桑町教育委員会

2.実証内容と成果③

参考資料



【ランニングクラブの活動①（小学生）】



【ランニングクラブの活動②（中学生）】



【ランニングクラブの活動③（多世代が一緒に練習）】



【ランニングクラブの活動④（中学校のトラックを使用）】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討委員会設置、
検討開始

令和5年

運営主体との連携
開始、部活動指導
員の配置開始

令和6年

地域クラブ活動の準
備、部活動指導員の
増員

令和7年

地域クラブ活動
の開始、
地ならし期間開
始

長期休業の休日
の部活動実施
(地域指導者)

● 経過

令和4年の終わりに、検討委員会を設置し、令和5年度より担当を明確にした。そして、運営主体と協議を重ねつつ、部活動指導員の配置を令和5年から実施し、6名からスタートした指導者は今20人へと増えている。

● 実施にあたって生じた課題

開始当初はロードマップを描けていなかったため、手探りの状態でのスタートだった。その上、指導者もなかなか見つからない種目もあったため、指導者確保も大きな課題だった。

● 実施内容、工夫した点 等

令和6年度に今後数年のスケジュールを明確にし、扶桑町として今後どのように進めていくかの全体計画も作成した。そして、HPに掲載して、小学生から中学生まで広報して、この部活動地域展開について理解をしてもらえるよう努めた。

● 経過

令和5年度より、担当が決まったことにより、中学校の教職員への説明を継続的に行ってきた。そして、部活動という今までの概念を根本から変えていく必要があると伝え続け、理解を求めた。

● 実施にあたって生じた課題

一生懸命継続して部活動を行いたいという教員もいれば、早く手放したいという教員もいたため、学校ごとで対応が異なる場合もあった。その調整が大変難しく、現地まで行って指導者や顧問と直接話す必要があった。

● 実施内容、工夫した点 等

令和7年度よりコーディネーターを新たに設置し、担当と連携しながら、休日の部活動に指導に入っている地域指導者や顧問と直接話をする機会を多く設けた。そこで出た意見をもとに、資料作成を行ったり、情報発信を行ったりすることで、考え方の統一化を図った。

● 経過

長期休業中は平日の部活動は実施されるが、休日はなかったため、地域指導者の方々にお任せすることを基本として、長期休業中の休日の部活動の実施を行った。

● 実施にあたって生じた課題

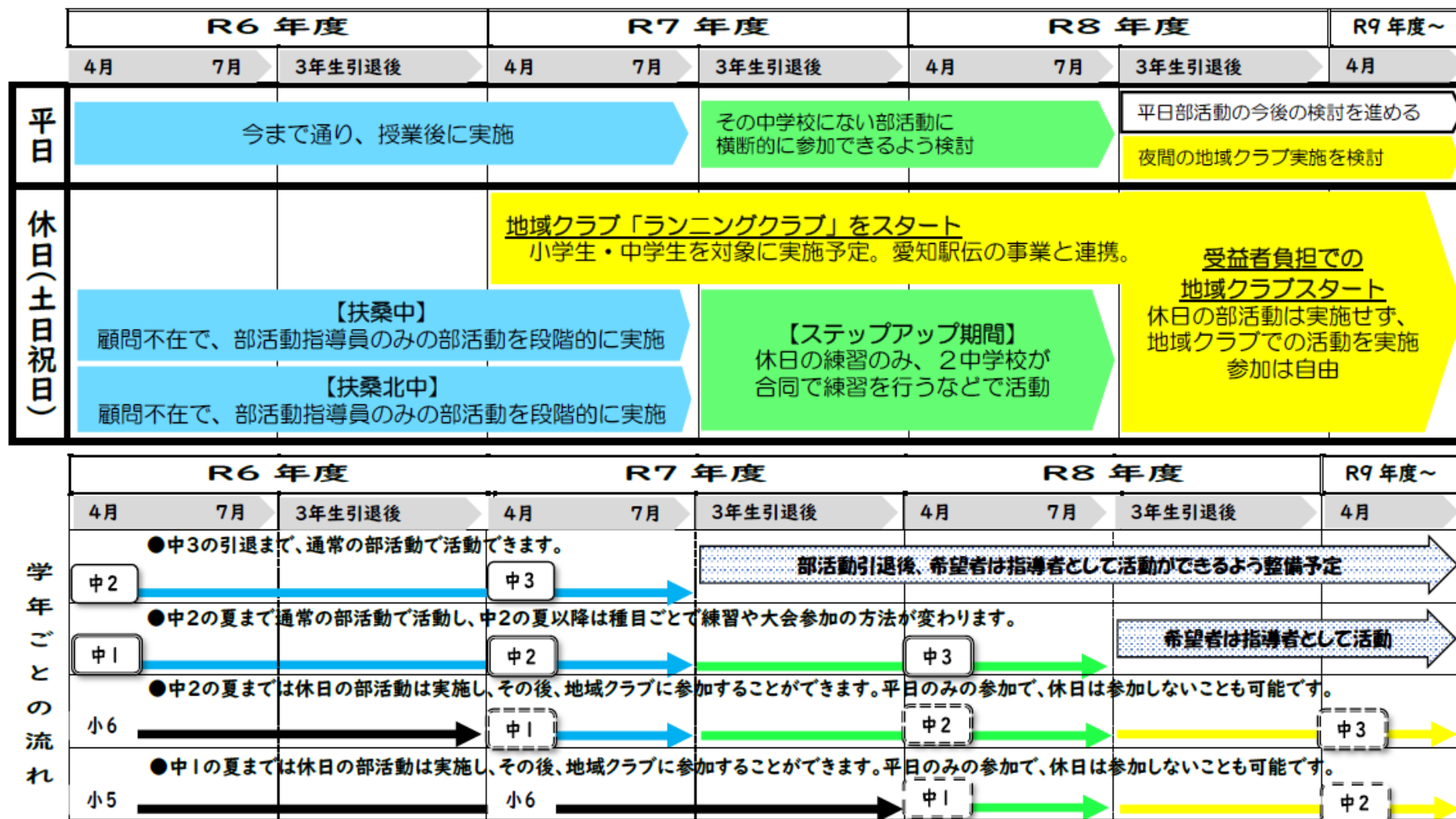
学校管理下での部活動を地域指導者にお任せする形をとったため、WBGTの計測や健康観察等の作業を学校のルールの下でお願いをしなければなかった。

● 実施内容、工夫した点 等

地域クラブ活動となった後も整備をしなければいけないが、WBGTを測る機会の設置方法や記入用紙の様式の検討等を養護教諭と一緒に考え、長期休業中の実施の体制を整えた。今後も周知がしっかりとされるようにするために、研修会等で話題にあげて、続けていく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典元：扶桑町教育委員会

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県大治町

自治体名：愛知県大治町

担当課名：教育委員会スポーツ課

電話番号：052-443-7077

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積6.59km ²
人口	33,694人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	982人
部活動数 (運動部活動のみ)	17部活
地域クラブ活動数	11クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等の 策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

【現状】

当町は1中学校で運動部は、軟式野球、男女バスケットボール、男女バレーボール、陸上、男女ハンドボール、女子ソフトボール、男女卓球、男女ソフトテニス、サッカー、水泳、柔道、剣道の17部が活動している。

本町の人口はほぼ横ばいでどの部活動も部員数が多く、限られた施設や時間の中での活動に苦慮している。また、種目が多く、未経験種目の部活動顧問を引き受けている教員も少なからずいる。

そこで、部活動地域展開の実証事業として、令和6年度は4地域クラブ、7年度は参加費を徴収して11地域クラブを開設し、月に1回の土曜日か日曜日に3時間実施し、それ以外の土日は部活動を行った。指導は、町のスポーツ教室やスポーツクラブ指導者に依頼した。すべて実業団OBや競技経験豊富な方々で学校部活動の指導に合わせて指導していただくことができ、生徒が混乱することなく進めることができた。参加した生徒からは「楽しかった」「わかりやすく教えてもらってできるようになった」等好評価の意見が多く聞かれた。

しかし、参加費が必要なこと、月に1回しかないこと、他の土日は費用負担がない部活動ができること等で地域クラブへの加入率は低く、運営方法を改善することが必要と感じた。

令和7年度 おおはる地域クラブ

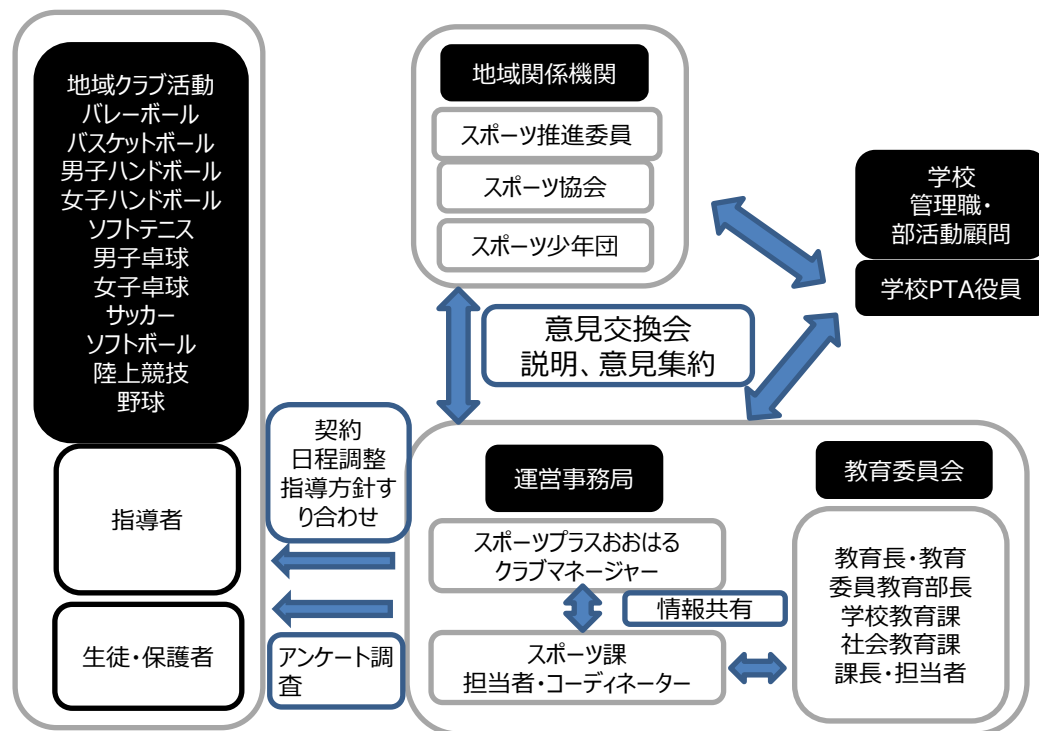
【地域クラブ活動参加者 143人】 【3年:38人 2年:51人 1年:54人】										
種 目	ソフト	卓球男子	卓球女子	テニス	バレー	バスケ	ハンド 男子	ハンド 女子	サッカー	陸上
指導者	大治中ソフトボールクラブ指導者	町ジュニア卓球クラブ指導者	町ジュニア卓球クラブ指導者	元大治中教員	ウルフドッグス名古屋選手OB	豊田合成スコーピオンズ選手OB	町スポーツ教室指導者	愛知大学女ハンド部	町スポーツ教室指導者	Running Designクラブリーチャースポーツクラブ指導者
加入率	73%	61%	44%	49%	29%	28%	22%	32%	12%	8%
部活動部員数	15人	18人	36人	57人	76人	64人	51人	38人	57人	73人

【課題】 参加費に見合う運営方法、生活困窮家庭への支援方法、会員・会費の管理、部活動顧問と地域指導者の連携方法

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・スポーツ課…部活動地域展開の主幹、地域展開の推進計画の立案、地域クラブ活動の運営、総合型地域クラブとの連携、保護者・生徒からの相談窓口、学校管理職との情報共有、部活動顧問との情報交換、企業との連携
- ・学校教育課・社会教育課…中学生の地域スポーツ・文化活動の環境整備

年間の事業スケジュール

令和7年4月	中学校教職員へ大治町の地域展開について説明 中学校PTA総会で保護者へ部活動地域連携について説明
令和7年5月	地域クラブ活動（野球・卓球・バスケ・バレー・ハンド・陸上・サッカー・テニス）開始
令和7年6月	第6回大治町部活動意見交換会実施
令和7年7月	サポーター企業募集 サポーターTシャツ作製
令和7年8月	地域クラブ活動巡回 指導者と面談開始
令和7年10月	土日の部活動を地域クラブ活動へ移行する日程を確定（令和8年8月から）
令和7年11月	中学校入学説明会で保護者へ部活動地域連携について説明 中学校教職員へ地域連携希望調査アンケート実施・顧問面談開始
令和8年2月	近隣市町村で部活動地域移行情報交換会を開催
令和8年3月	地域クラブ活動申し込み・会費徴収システム整備（Web）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		11クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	11クラブ（14部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	34人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	バスケットボール	・休日 10回	(土) 8:30～11:30	1年：9人 2年：6人 3年：3人	令和7年5月～令和8年2月	3人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	バレーボール	・休日 10回	(日) 14:00～17:00	1年：5人 2年：6人 3年：11人	令和7年5月～令和8年2月	4人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	ソフトテニス	・休日 10回	(土) 8:30～11:30	1年：14人 2年：10人 3年：4人	令和7年5月～令和8年2月	2人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	男子卓球	・休日 10回	(日) 13:00～16:00	1年：7人 2年：12人 3年：8人	令和7年5月～令和8年2月	2人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	女子ハンドボール	・休日 10回	(土) 8:30～11:30	1年：10人 2年：2人 3年：0人	令和7年5月～令和8年2月	12人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動
大治町地域クラブ活動	総合型地域スポーツクラブ	ソフトボール	・休日 10回	(日) 12:15～15:15	1年：5人 2年：6人	令和7年11月～令和8年2月	5人	2人 (内、兼務 2人)	5,000円/年額	すべて：部活動

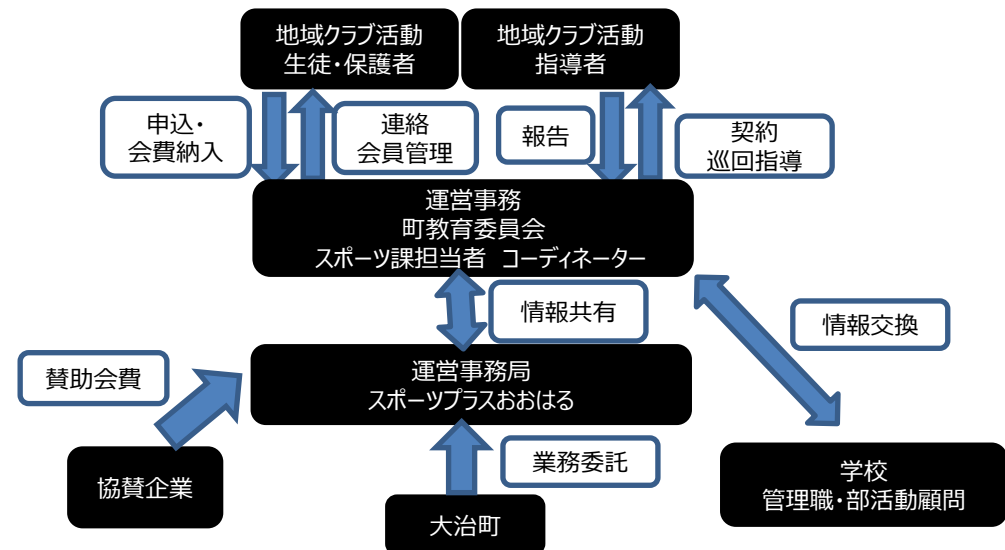
2.実証内容と成果

主な取組例

●大治町地域クラブ活動 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール、バレーボール、サッカー、野球、男子ハンドボール、女子ハンドボール、男子卓球、女子卓球、ソフトボール、陸上ソフトテニス
運営団体名	スポーツプラスおおはる
期間と日数	月1回程度 全10回 令和7年5月～令和8年3月 * 野球のみ1回実施
指導者の主な属性	実業団OB、会社員、自営業、大学生教員
活動場所	大治中学校（体育館、グラウンド、柔剣道場、テニスコート）
主な移動手段	自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	5,000円/年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 ※指導者は別で保険に加入していたため、0件

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●町教育委員会スポーツ課担当者、コーディネーター

役割：地域クラブ活動指導者と部活動顧問とのつなぎ、保護者・生徒からの相談窓口、活動日調整、活動場所調整、関係者への連絡、事務手続き

●各クラブ主任指導者 11名

役割：日程調整、クラブ指導、報告

●部活動顧問

役割：日程調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- コーディネーターを1名配置し、町教育委員会・学校管理職・部活動顧問・町スポーツ協会・スポーツ推進委員との情報交換・連絡調整を行った。
- 運営団体であるスポーツプラスおおはると情報交換・情報共有を行い、おおはる地域クラブの運営体制の整備や人材の確保等、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行った。
- おおはる地域クラブの活動状況を巡回して把握し、指導助言を行った。
- 参加者管理、参加者・指導者への連絡、日程、会場の調整等にスマホアプリを活用し、さらに会費徴収のための整備を行った。
- 近隣の海部地区7市町村の担当者間で情報交換をして、地域展開の環境整備を行った。

課題への対応方針

- 関係団体等との連携や指導者・顧問との連携が課題であったが、スマホアプリを導入することで大幅に改善できた。
- 次年度は、会費徴収・指導者研修もできるアプリを導入する予定。

取組の成果

- 関係者との情報共有・連絡調整
 - ・スマホアプリ「BAND」を活用し、日程調整・日程変更・出欠連絡・出欠確認・施設調整・活動内容の報告等が昨年度より大幅に向上した。
- 実施主体の整備
 - ・連絡調整にはアプリを活用し、重要事項は対面で面談をし、情報共有をしっかりと行うことで、参加者や顧問から評価が高い地域指導者の確保ができた。
 - ・管理職や町施設の管理者と随時確認作業を行い、施設確保もほぼ混乱なくできた。
- 指導助言の体制
 - ・コーディネーターやスポーツ課担当者が活動・指導状況を巡回して把握し、アプリ等で参加者の意識、困りごとを確認して早い対応を行うことができ、トラブルなく活動ができた。

今後の取組における課題

- 部活動がスライドした形の地域クラブ活動で、月に1回だけ有料で実施したので参加率がかなり低かった。今後は、すべての休日を地域クラブ活動にし、新たな価値を持たせることで、生徒が参加したくなるクラブ活動の運営に取組たい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

- ・運営事務局であるスポーツプラスおおはるのクラブマネージャーと定期的な打ち合わせ
- ・毎月、各クラブを巡回し、課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・関係団体との連携のため、町意見交換会を実施
- ・管理職、部活動顧問、参加者と保護者、指導者との連絡調整
- ・令和8年度の推進計画を作成
- ・財源確保のため、企業まわりをして協賛企業を募集
- ・活動に必要な物品等の整備
- ・保護者からの相談とその対応

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・日程調整、日程変更、施設調整、参加者の出欠、部活動と地域クラブ活動の情報共有、実施報告について、スマホアプリ「BAND」を活用したことによって連絡ミスが減り、参加者との連絡もスムーズにできた。
- ・しかし、登録していない方や確認を忘れる方もみえて、個別に電話する等の対応が必要であった。また、会費徴収機能がなかったので現金集金がかなり大変であった。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・スポーツ保険の加入
- ・運営事務局のスポーツプラスおおはると町スポーツ課でWチェックをして事業運営、会計処理を実施
- ・活動を実施したごとの報告を依頼し、トラブル等がなかったか随時確認
- ・コーディネーターが巡回し活動を確認
- ・指導者や参加者へ聞き取りを実施

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・暴風・大雨警報・・・集合1時間前に出ているら中止し日程変更
- ・出席確認・・・開始時刻までに連絡がない場合は保護者へ連絡
- ・けが・体調不良等・・・スポーツセンター担当者が応急処置
- ・首から上のけが・・・意識なしor朦朧の場合は救急車対応
- ・自力で帰れないor救急車対応の場合・・・保護者と中学校管理職へ連絡
- ・帰宅後に病院で受診・・・スポーツ安全保険で対応
- ・活動中の生徒同士のトラブル・・・コーディネーターが事情を確認し関係者対応
- ・トラブル・事故等の管理責任・・・運営主体であるスポーツプラスおおはると町教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

【質の確保のため】

- ・地域指導者がプロの指導者と一緒に指導する機会を確保
- ・指導研修の開催、コーディネーターによる地域クラブの巡回・指導

【指導者の量の確保】

- ・人材バンクの活用
- ・スポーツ教室や事業等で声掛け

取組の成果

【質の確保のため】

- ・プロの指導者と一緒に指導する機会を確保
- ・指導研修を開催

今年度は、実業団やスポーツ教室の指導者ばかりであったので、コーディネーターが巡回して、生徒の指導に必要な内容を伝えたり助言をおこなった。

【指導者の量の確保】

- ・人材バンクの活用

今年度は、スポーツの部については人材バンクの活用は必要なかった。

今後の取組における課題

【質の確保のため】

- ・指導研修を開催

今年度は、コーディネーターが個別対応したが、本格実施になった場合は、時間的に困難であり、一律の指導助言は不可能

【指導者の量の確保】

- ・人材バンクの活用

部活動顧問との連携ができる方を探すことが困難

課題への対応方針

【質の確保のため】

- ・指導研修を開催・・・ICTの活用
- ・地域が開催する研修会への案内

【指導者の量の確保】

- ・人材バンクの活用・・・顧問からの要望を確認して条件に記載
- ・スポーツ教室や事業等で声掛け

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

【量の確保】

- ・大学訪問で大学生の指導者を募集
- ・町スポーツ教室の指導者からの紹介
- ・企業訪問で指導者を募集
- ・県人材バンクを活用

【質の確保】

- ・町スポーツ教室やイベントで指導実績のある指導者を雇用
- ・指導実績がないor経験が浅い指導者には、コーディネーターが指導助言

指導者研修の内容

研修名	災害時・けが等の対応や処置
講師	町コーディネーター 赤田由起江
研修内容	・災害時の対応 ・けが・病気等の対応 ・事故・生徒間トラブルの対応

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

巡回して直接、生徒のおかれている状況を教えてもらえたので、気を付けてみる事ができた。

参加者②

事前に災害時やけがの対応を伝えていただいていたので、今回は何もなかったが、不安なく指導ができた。

参加者③

スマホアプリで常時連絡が可能であったので、生徒が体調不良の時も応急処置をしている間にコーディネーターがかけつけてくれたので、その後も安心して活動ができた。

指導者の資格取得促進に向けた取組

- ・資格取得するための資金援助
- ・に向けて企業賛助金を募集

指導者総数	38人
資格所持指導者数	7人
本年度資格を取得した指導者	1人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- ・民間企業のアプリを利用した指導者と部活動顧問との活動内容や大会状況の共有
- ・部活動の活動目標の共有

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携・・・運営主体ではあるが、現在はスポーツ課担当者とコーディネーターが主体となって活動しているため、定期的に打合せを行い情報共有した。
- ・大学との連携・・・愛知大学ハンドボール部女子と連携して女子ハンドボールクラブの指導を依頼した。
- ・企業との連携・・・スポーツプラスおおはるの賛助会員になり費用援助を依頼した。

取組の成果

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携
スポーツ課とスポーツプラスおおはるとの打ち合わせ会を毎月1～2回実施することで、会費、会員管理についてWチェックができた。
- ・大学との連携
大学にとっては施設を優先的に使用できると好評で、中学生にとっては、技術面だけでなく将来に向けての話等も聞くことができ、9割以上の満足度が得られた。
- ・企業との連携
企業10社から120万円の賛助金を得られ、練習用Tシャツや必要な物品を購入することができた。企業にとっても地域貢献ができてイメージアップにつながると好評だった。

今後の取組における課題

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携・・・運営主体ではあるが、事業に対して運営スタッフの人数が足りず、スポーツ課が運営主体となっていた。
- ・企業との連携・・・募集に関しては、1社ずつ回ったので、多くの企業に回ることができなかった。

課題への対応方針

- ・総合型地域スポーツクラブとの連携
ICTを活用し、事務分担をして総合型地域スポーツクラブで運営できるように環境整備する。
- ・総合型地域スポーツクラブのスタッフを増員し、スポーツ課との連携強化を図る。
- ・企業との連携
ホームページの活用をして、多くの企業が関心を持ていただけるように広報を工夫する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

まちづくりと連携した取組

- 地元企業と総合型地域スポーツクラブとの連携で地元の活性化
 - ・地元企業から費用支援を受け、小中学生のスポーツ・文化的な活動の環境整備に協力していただいた。
 - ・サポーター企業名やロゴをプリントした練習用Tシャツを練習で着用することで地域の方へ地元企業を知っていただく機会とした。

【成果】

- 費用支援により、おおはる地域クラブの活動・運営のための環境整備の一助となった。
- 生徒は、サポーターTシャツにより地元企業を知る機会となり、応援していたことで企業への感謝とやる気につながった。
- 単発事業ではなく、今年度実施したことにより、次年度以降も継続してサポートを希望する企業と繋がることができた。

【感想】

参加者①

練習用Tシャツは素材がよくてよくつかわせていただいています。これからも練習に励み大会で結果を残せるよう頑張ります。

参加者②

メッセージを読んで、企業の皆様に応援していただいていることをうれしく思いました。地元で活動できることに感謝し、練習をがんばります。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ①小学生が様々なスポーツを体験できる「スポーツチャレンジ」を開催し、中学生になったとき、主体的にやりたいことを選択しやすいようにした。
- ②地域クラブ活動だけでなく、スポーツ課主催のスポーツ教室と指導者を統一し、生徒が指導方法で混乱しないようにした。

取組の成果

- ①野球、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、フットサル、卓球、バドミントン等の種目をすべて体験することができ、「やってみたい種目があった」「初めてやったけどおもしろかった」等、関心を持たせることにつながった。
- ②地域クラブ活動だけでなく、スポーツ課主催のスポーツ教室と指導者を一緒にしたことで、生徒が指導方法で混乱することもなく、部活動顧問からも連携しやすかったと好評であった。

今後の取組における課題

- 保護者の費用負担の軽減
- 参加者多数によるけがの発生の抑制
- 申込者多数のため、申込や参加費徴収の際に、窓口のみの受付のため煩雑になること。

課題への対応方針

- 保護者の費用負担の軽減
参加者を増やして一人の負担額を軽減
- 参加者多数によるけがの発生の抑制
運営方法の改善
中学生の見守り等ボランティアを活用し、複数の目で小学生を見守りできる体制を作る。
- 申込者多数による窓口等の対応
システムを活用し、申込や参加費の収受を窓口以外でもできるように整備する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
工：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 工：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

○海部地区は7市町村で教職員の人事異動があるため、できる限り混乱しないように、7市町村の部活動地域展開の担当者やコーディネーターが情報交換会を行って合わせられるところの確認等を行った。

市町村名			愛西市	あま市	大治町	蟹江町	津島市	飛島村	弥富市
担当課			学校教育課 課長補佐（佐藤） コーディネーター（新井） 生涯学習スポーツ課	学校教育課（家田） 指導主事（水越） コーディネーター（龍島）	スポーツ課 コーディネーター（赤田） 主任（戸田） 学校教育課長（太田） 社会教育課（青木）	生涯学習課（佐々木） コーディネーター（上田） 学校教育課 総合型地域スポーツクラブ（杉浦）	学校教育課 指導主事（服部） コーディネーター（青木）	生涯学習課（近藤） 教育課（奥村）	学校教育課 コーディネーター（安江） 生涯学習課（栗本） NPO立ち上げ業務
アンケート			未実施	令和5年・令和6年実施	実施予定 令和7年11月 「地域連携について」 対象：顧問・地域指導者・ 中学生・保護者	令和5年実施	令和5年・令和7年実施	令和5年7月実施 令和7年7月 中3アンケート 「7割が満足」	令和6年9月実施
平 日			部活動：顧問	部活動：顧問	部活動：顧問	部活動：顧問	部活動：顧問	部活動：顧問	部活動：顧問
土 日	令和7	活動状況	部活動：顧問 （一部）外部指導者 地域クラブ（一種目）	部活動：顧問 （一部）外部指導者	月1回 地域クラブ活動 残りは部活動（顧問）	部活動：顧問	部活動：顧問	委託 （株）リーフラス	部活動：顧問 （一部）外部指導者
		種目	地域クラブ：吹奏楽（国事業） 外部指導者： 永和：男バレー・女テニス 佐屋：野球・女テニス・オケ 立田：女ソフト 八開： 佐織：男バスケット・サッカー 佐織西：女バレー	柔道	バスケット・バレー・陸上・ ハンドボール・ハンド女・ 卓球男・卓球女・ サッカー・テニス・ 吹奏楽・ 野球（休止中）・ ソフト（検討中）・ ロボコン（指導者探し中）	9月13日～剣道クラブ ＊部活動と完全に切り離す	令和8年～4中学校2部活動ずつ 土日すべて地域	女テニス・ 女バスケ（西尾張大会出場） 卓球 野球（令和7年4月入部なし） バレー部（令和7年4月入部開始） 平日のみ 生徒主体 20人	
		県実証事業	あり（生涯学習スポーツ課）	なし	2年目	あり	あり	なし	なし
		補助金	指導員配置（学校教育課）	指導員配置	なし	なし	なし	なし	なし
		目標	令和10年4月	令和10年4月	令和8年8月	令和9年9月	未定	令和6年9月～令和10年	令和9年9月
	地域連携移行	運営主体	市（コーディネーター）	市	総合型地域スポーツクラブ 「スポーツプラスおおはる」	総合型地域スポーツクラブ		民間業者（正社員） （株）リーフラス	NPO法人やとみ放課後アカデミー（総合と切り離し）
		兼職兼業	令和7年予定	令和8年予定	令和7年5月～ 異校種2人 令和8年8月～ 大治中教諭希望	希望者を活用予定	必要に応じて	なし	令和9年予定
		受益者負担	未定	ありの予定	年会費1,500円 月額500円/1回	県の実証事業の間はなし	ありの予定	なし	ありの予定
		備考欄		○県登録&ハローワークで指導者確保 ○指導者研修は国のネット配信利用 ○部活動指導員を配置し、採算が見込めればクラブチーム立ち上げ	○既存団体を活用して地域連携を実施	① 小学生から授業後、長期休業に受益者負担有でスポーツ体験を実施 ② 企業協賛を募り、スポンサーTシャツ作製 企業9社（令和7年9月～着用予定） ③ スポあんアプリ導入検討	○蟹江中と蟹北中で合同練習の形で令和7年10月～実施予定 ○指導員確保は町独自で実施		○将来は委託でなく地域でクラブ活動運営を目標 ○リーフラス 1回6,000円 各部1名+統括責任者1名 大会引率・審判は教員に+
	課 題		○一般人の指導者は保護者が心配 ○愛西スポーツクラブへ依頼したが人間関係、指導方法の違いで難しい		① 月1回地域クラブ、残りは部活動の形は生徒・保護者の理解が得にくく、日程調整も困難 ② 企業協賛は事務手続きが大変	ガイドラインの作成			○やとアカ理事長（元P会長） ○東邦ガスと連携 ○学校部活動にない種目も追加

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

○異学年交流ができる場を設定

・「授業後スポーツチャレンジ」

中学生になったとき、部活動ではない地域クラブ活動が生徒や保護者へ受け入れやすいように、小学生にも地域クラブ活動の一環としてスポーツ体験「授業後スポーツチャレンジ」を月に2回2時間、1～3年生の部と4～6年生の部に分けて開催した。参加者は下校をせず、そのまま体育館で活動できるように学校と連携をして取組んだ。

・「夏休み・春休みスポーツチャレンジ」

小学生が様々なスポーツを体験できる場として長期休業中に開催し、中学生とも関わることができるようにボランティアを募集した。

今後の取組における課題

○「仲間と楽しく活動したい」「もっと強くなりたい」等、目的が違う子どもたちが満足できる環境整備

課題への対応方針

○町のスポーツ教室、スポーツ少年団、おおはる地域クラブ、民間クラブ（大治町と連携）等、ニーズに合わせて選択できる場を整備

取組の成果

令和7年夏休みスポーツチャレンジ 報告 令和7年8月21日			
【申込者総数102人】 【3年:19人 4年:42人 5年:17人 6年:24人】			
【大治小 34人 3年:14人 4年:14人 5年:5人 6年:1人】			
【南 小 26人 3年:1人 4年:12人 5年:6人 6年:7人】			
【西 小 42人 3年:4人 4年:16人 5年:6人 6年:16人】			
【ボランティア数 64人】 【大治中: 61人 1年: 16人 2年: 26人 3年: 19人】 【一般: 3人】			
日 時	種 目	参加者数	
		児童	ボラ
8月7日（木） 13:00～16:00	ハンドボール・卓球・バドミントン・バスケットボール	94人	29人
8月19日（火） 13:00～16:00	フットサル・おにごっこ・ソフトバレーボール・ドッジボール	90人	26人
8月21日（木） 13:00～16:00	野球・卓球・バスケットボール・ドッジボール	93人	30人
8月5日（火） 13:00～16:00	授業後スポーツチャレンジ大会	94人	22人

備考欄

- ・今年度も定員100人で、受付初日は仕事をしている保護者を考慮し18時からとした。武道場を待合室とし、受付がスムーズにいくように事前に注意事項を確認した。
- ・毎回、4グループに分かれて、30分ずつローテーションで4種目を体験、最後は30分フリータイムとした。
- ・体験種目は、ドッジボール（2回） バスケットボール（2回）卓球（2回） フットサル ハンドボール ソフトバレーボール 野球 バドミントン 鬼ごっこ 計9種目を行った。
- ・今年度も、200円程度持参し、自販機利用を可としたので、水分不足の問題はなかった。



バスケットボール

- ・61人の中学生ボランティアには、準備、受付、小学生グループのリーダーとして誘導や相手、片づけ等をお願いした。「部活動で遅れる」「用事で途中まで」という状況でも参加してくれ、うまく仲間に入れない子の相手やゲームにも積極的に参加してくれて大変助かった。
- ・一般のボランティアは募集せず、昨年度から参加して下さっている3人が声をかけてくれてお願いをした。子どもたちへの対応も的確で温かく、手の足りないところへ臨機応変に動いてくださり安心して活動ができた。



卓球

- ・申し込みした児童や保護者から「外でボールを使って遊べる場所がないし、暑くて外へ出せないのがありがたい」「いろいろな種目が体験できてとてもよい」との意見が多数聞かれた。
- ・スポーツチャレンジが小学生や保護者に浸透してきて、1,500円の参加費を徴収したが、100人をはるかに超える申し込みがあり、もっと定員を増やしてほしいという声も聞かれた。
- ・毎回参加してくれる児童も多く、ボールを投げる力やコミュニケーション力がかなり向上していると感じた。



ドッジボール

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 1口1万円の賛助会員となって、部活動地域展開のサポーターとなっていただけの地域の企業を募集した。
- サポーターとなっていた企業を地域へ紹介するため、企業のロゴ入りTシャツを作製し、地域クラブの練習時に着用した。

今後の取組における課題

- 毎年、安定したサポーター企業を確保すること
- 保険料の見直しや、参加者数を増やして全体の参加費を抑制すること

課題への対応方針

- 企業にとっても魅力ある地域展開にするため、Tシャツで広報するだけでなく、小中学生のスポーツ大会を企業協賛で開催する等して町おこしにもつなげていく。
- 現行の保険以外に他社の保険も参考に見直していく。

取組の成果

- 今年度は、現金集金をした関係で、最初に一括して参加費を徴収したため、企業の賛助会費を参加費用負担軽減につなげることができなかった。
- 必要なボールや道具を購入することができ、生徒や指導者からも感謝された。
- サポーターTシャツによって、地域からの応援を直に感じることができ、参加生徒は、「やる気につながった」等の声が聞かれた。
- 指導者からもモチベーションアップにつながると大好評だった。
- 企業も地域貢献につながり、ぜひ今後もという意見もいただいた。
- 今後は、部活動基金にして安定した支援ができるようにしていきたい。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

○収支内容

・当初の予算額に対して、受益者負担が少なく、公費の割合がたかくなってしまった。原因として、休日部活動のうち月1回、年間10回程度の実施で参加者からの理解を得ることが難しく、各部活動の部員に対する地域クラブの参加率が低かった。

今後の課題および対応方針

○今後の課題

- ・各地域クラブ活動の参加者を増加させること。
- ・休日の部活動を次年度8月より地域クラブ活動へ完全移行していく際の周知・徹底。

○課題の対応方針

- ・次年度の8月から休日の部活動を地域クラブ活動に月4回、完全移行する。
- ・部活動顧問の先生へ休日の地域クラブ活動に完全移行するにあたり、説明会を実施し、部員への周知を広めてもらう。

●収入

項目	費用	割合
公費	4,661,298円	87%
受益者負担	706,900円	13%
合計	5,368,198円	—

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	1,884,800円	35%
諸謝金（指導者）	1,800,000円	—
会場使用料	0円	—
消耗品費	0円	—
印刷製本費	0円	—
携帯電話レンタル料	0円	—
雑役務	0円	—
生徒保険料	84,800円	—
指導者保険料	0円	—
事務局運営費	3,483,398円	65%
謝金	0円	—
会場使用料	0円	—
スポーツ教室開催費	0円	—
保険料	0円	—
人件費	3,483,398円	—
交通費	0円	—
印刷製本費	0円	—
消耗品費	0円	—
備品購入	0円	—
通信運搬費	0円	—
修繕料	0円	—
振込手数料	0円	—
一般管理費	0円	—
消費税相当額	0円	—
合計	5,368,198円	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

- 地域クラブ活動の参加費は、以下の3点から1回3時間500円、月額2,000円で実施
 - ①保護者への受益者負担額に関するアンケート結果で、許容できる月額費用2,000円以上が約70%であった。
 - ②町で行っているスポーツ教室（バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、野球、陸上競技、バドミントン、クロスミントン）が、1回1.5時間500円で行っている。
 - ③小学生の授業後スポーツチャレンジ（地域クラブ活動へのスムーズな移行のために開催）が、1回2時間750円で行っている。
- 運営資金不足に備え、部活動基金をつくるため、サポーター企業を募集する。
- 参加人数が増え、収入が安定してきた場合は、参加費を減らすことを検討する。

大治町 部活動地域展開アンケート （保護者448人）

地域クラブ活動で許容できる月額費用はいくらですか？	割合
(1) 3,000円	32.7%
(2) 2,000円	25.7%
(3) 1,000円	19.8%
(4) 500円	10.7%
(5) 0円	9.8%
(6) その他：500円、1,000円以内、必要な分	3.4%

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 今年度は、土日の部活動のうちの月1回ずつを地域クラブ活動としたので、学校が部活動として施設をおさえた。
- 使用料は免除とした。

取組の成果

- 今年度の全地域クラブ活動の91%を学校施設で、9%を町の施設で利用して実施した。
- 学校施設や町の施設を利用することにより、費用もかからず、生徒も自力で来ることができた。
- 普段使い慣れているため、練習の効率もよく、けがの防止にもつながった。

今後の取組における課題

- 令和8年度は、すべての土日を地域クラブ活動とするため、トラブルのない施設予約

課題への対応方針

- 指導者・運営事務局間の連携がとれるように、スマホアプリの導入

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- スマホアプリを導入し、部活動顧問と地域指導者が連絡とれるようにし、トラブルがないようにコーディネーターが調整役を行った。
- 運営スタッフに開錠・施錠を依頼した。

【成果】

- 施設予約については、スマホアプリの導入で事務局の負担が軽減された。

用具使用・管理等における取組

- 用具やボール等は学校部活動で使用しているものを活用し、壊れているものやボール等は、企業の賛助金で補充した。

【課題】

- 修繕が必要な場合、ボールやスポーツライン等の消耗品の費用をどうするか。

【課題への対応】

- 保険への加入
- 地域企業からの費用サポート

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○令和6年度は、6部活動を月1回の休日で地域クラブとして実施し、令和7年度は、13部活動を月1回の休日で地域クラブとして実施した。

【成果】

○競技経験のない部活動顧問からは、月1回でも助かる等、好評であった。

○競技の実績が高い指導者が多く、部活動顧問からは信頼して任せられるとの声も聞かれた。

○生徒、保護者からは、指導については満足との声が多かった。

○スマホアプリの導入で、生徒への連絡がタイムリーにできた。また、指導者との情報交換、情報共有も電話よりも確実に伝わりよかった。

【課題】

○月1回だけ地域クラブで後は部活動のため、天候等で変更になった場合、日程調整が大変煩雑であった。

○1回だけの地域クラブはわかりづらく、部活動か地域クラブかどちらかにしてほしいという声が多く聞かれた。

○参加費の徴収を開始前に現金で集金したので、毎回、会計事務が煩雑だった。

○教員、生徒、保護者、地域指導者、運営事務局すべてが快適に行うには、コーディネーターが大変重要な役割を担うと強く感じた。

●成果の評価

○令和6年度の課題であった電話連絡の煩雑さは、アプリの導入で解消された。しかし、今年度から参加費徴収の事務も増えたが導入したアプリでは対応できなかった。

○令和6年度は6部活動のみだったが、令和7年度は、地域クラブとの連携を望む部活動すべてを月1回ではあるが地域クラブを実施することができた。

○施設の施錠等も指導者がある程度行えるようになり、事務局が現地に出向く回数も減り、負担を減らすことができた。

●今後に向けて

○令和8年度からは、参加費徴収、出欠確認、連絡等ができるスマホアプリを導入し、事務の負担軽減を図る。

○令和8年度は8月より、土日に常時活動している部活動をすべて地域クラブとする。

○地域クラブの指導者は、指導を希望し、労働時間等の条件をクリアした教員を優先とし、地域指導者と一緒に指導したいか教員だけで指導したいか等の意見も聞いて地域指導者の配置を決定する。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

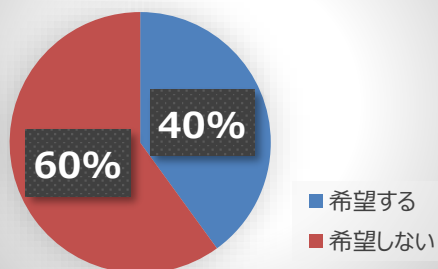
Q.部活動に参加している人の中で地域クラブ活動に参加した人

種 目	ソフト	卓球	テニス	バレー	バスケ	ハンド	サッカー	陸上
クラブ参加/ 部所属	11人/ 15人中	27人/ 54人中	28人/ 57人中	22人/ 76人中	18人/ 64人中	23人/ 89人中	7人/ 57人中	6人/ 73人中
参加率	73%	50%	49%	29%	28%	26%	12%	8%

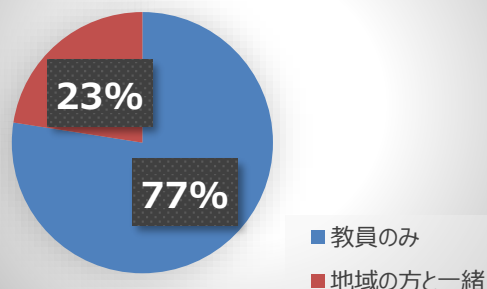
Q.大治中部活動顧問40人の中で、令和8年度「おおはる地域クラブ」の指導者を希望しますか。

Q.令和8年度「おおはる地域クラブ」で指導を希望する人の中で、地域の方と一緒に指導したいか、教員だけで指導したいか。

地域指導希望アンケート



指導の方法



●参加者/関係者の声

参加者①

大学生の方と一緒に練習ができ、できないところは優しく教えてくれたので参加してよかった。

参加者②

学校の部活動が地域クラブに変わっても安心してスポーツを続けることができてうれしい。

部活動顧問③

月1回でも地域クラブとして実施してもらえるのはよかった。競技経験豊富な方や指導経験がある方で学校とも連携して取組んでいただけたのでとても助かった。

地域指導者④

ボランティアで指導してほしいという話はくるが、スポーツを指導して生計を立てているので、報酬もいただけて何かあったときもすぐに対応していただけるのでとてもありがたい。

運営事務局⑤

生活困窮家庭への費用支援を含め、地域クラブを運営するには財源を確保しなければならないので、サポーター企業を募集して取組んでいるが、運営事務局の負担が大きすぎる。

2.実証内容と成果③

参考資料

大治町地域クラブ活動の様子

* サポーター企業Tシャツを着て練習



【バレーボールクラブ】



【バスケットボールクラブ】



【女子卓球クラブ】



【ソフトテニスクラブ】



【サッカークラブ】



【男子ハンドボールクラブ】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

事務局設置
意見交換会開催
検討開始

アンケート実施
指導者の選定
部活動の選定
教員への説明

令和5年度

- ステークホルダー
 - ・町教育委員会・学校教育課・スポーツ課
 - ・社会教育課・総合型地域スポーツクラブ
 - ・大治町内小中学校・町スポーツ、文化協会
 - ・スポーツ教室講師と講師の在籍する企業
 - ・大学・高校
- 経過
 - ・他市町村との情報交換⇒運営事務局選定⇒関係機関と意見交換会開催⇒アンケート実施⇒教員へ説明⇒令和6年度県実証事業指導者選定⇒令和6年度対象部活動を選定
- 実施にあたって生じた課題
 - ・教員、児童生徒、保護者への周知
 - ・地域への広報
- 実施内容、工夫した点等
 - ・入学説明会等で児童生徒へ説明
 - ・チラシの配布

令和6年度

生徒・保護者への説明
実証事業開始
部活動との調整
意見交換会開催

小学生とその保護者の意識改革
教員・生徒・保護者へアンケート実施

令和6年度

- ステークホルダー
 - ・町教育委員会・学校教育課・スポーツ課
 - ・社会教育課・総合型地域スポーツクラブ
 - ・大治町内小中学校・町スポーツ、文化協会
 - ・スポーツ教室講師と講師の在籍する企業
 - ・大学・地元企業
- 経過
 - ・教員、生徒、保護者へ説明⇒運営事務局決定⇒関係機関と意見交換会開催⇒アンケート実施⇒連絡アプリ導入⇒令和7年度県実証事業指導者選定⇒令和7年度対象部活動を選定
- 実施にあたって生じた課題
 - ・地域クラブ活動日の調整
 - ・財源の確保
- 実施内容、工夫した点等
 - ・連絡アプリの導入
 - ・企業との連携

令和7年度

地域クラブ活動の拡大
意見交換会開催
教員へアンケート実施

土日の地域クラブの完全実施時期を検討
令和8年度地域クラブ指導者を選定

令和7年度

- ステークホルダー
 - ・町教育委員会・学校教育課・スポーツ課
 - ・社会教育課・総合型地域スポーツクラブ
 - ・大治町内小中学校・町スポーツ、文化協会
 - ・スポーツ教室講師と講師の在籍する企業
 - ・大学・地元企業
- 経過
 - ・教員、生徒、保護者へ説明⇒連絡アプリ導入⇒関係機関と意見交換会開催⇒学校と申込期日等調整⇒指導者と契約⇒地域クラブ開始⇒参加申込受付⇒参加費徴収⇒令和8年度地域クラブ開始時期決定
- 実施にあたって生じた課題
 - ・参加費の徴収方法
 - ・施設の調整
 - ・生活困窮家庭への支援方法
- 実施内容、工夫した点等
 - ・部活動アプリの導入
 - ・企業との連携

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【大治町の目指す姿】

大治町部活動地域展開	【目指す姿】	令和8年2月27日
① 生徒のニーズに合わせて選択できる A 平日だけ活動したい B 平日・土日ともに活動したい C 教室やクラブでもっとうまくなりたい D フリー ② 小学生から発達段階に合わせてスポーツ・文化体験ができる ③ 休日は教員の希望に合わせて選択できる A 教員だけで指導したい B 地域指導者と一緒に指導したい C 指導は難しい ④ 小中学生の活動を地域企業が応援し、地元で愛着の持てる活動とする		

【ロードマップ】

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
取組内容	・国ガイドライン周知 ・意見交換会開催 ・大治町地域連携方針を検討 ・大治町部活動地域連携について保護者と教職員へ広報 ・教員アンケート実施 ・小学生スポーツチャレンジを開催	・教職員へ説明 ・実証事業に6部活が参加 ・意見交換会開催（3回） ・小5、6年生へ大治町部活動地域連携を説明 ・児童・生徒、保護者、教職員にアンケート実施 ・地域団体へ説明 ・教職員兼職兼業を検討 ・保護者費用負担を検討	・実証事業の拡大 ・意見交換会開催 ・土日の地域クラブ活動開始時期を決定 ・生徒、保護者、教職員、関係者に今後の地域展開について説明 ・指導者の確保 ・学校と地域クラブの連携方法を検討 ・生活困窮家庭への支援方法を検討	・土日の部活動を廃止し、地域クラブ活動を開始（令和8年8月～） ・教員へ地域クラブ指導者希望アンケートを実施 ・地域指導者登録開始、契約 ・参加申し込み・参加費徴収・連絡・情報交換・出欠確認ができる「部活動アプリ」を導入 ・小学生の地域クラブ「授業後スポーツチャレンジ」を開始 ・サポーター企業を募集 ・大会・コンクールの引率・監督について検討	・平日の部活動について意見交換会を実施

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県蟹江町

自治体名：蟹江町

担当課名：教育委員会 教育部 教育課・生涯学習課

電話番号：0567-95-1111

1.自治体の基本情報

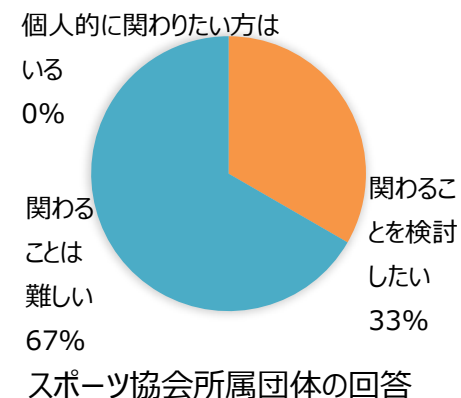
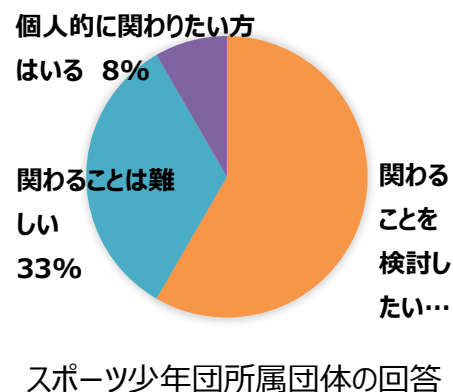
基本情報

面積	11.09km ²
人口	36,841人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	912人
部活動数 (運動部活動のみ)	25部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- ・ 町内には2つの中学校があるが、生徒数が少ない方の中学校では生徒数の減少の影響で顧問の教員が不足し、廃部せざるをえない部活動が出てきている。
- ・ 地域移行を推進するため、令和5年度に生徒や保護者、関係団体にアンケート調査を実施、令和6年度には学校部活動地域移行検討委員会を設置、令和7年1月からコーディネーターを配置し地域移行に向けて取組んできた。
- ・ 令和7年度より実証事業を行うこととし、その成果をいかして地域クラブの種目を増やしていき、令和9年9月をめどに全ての部活動を移行する予定であり、令和7年3月に周知のチラシを小中学生に配布した。
- ・ アンケート結果では、スポーツ少年団では地域移行に関わることを検討したい人は半数以上あったが、スポーツ協会では比較的少なかった。
- ・ 地域移行を進めるうえでの課題としては、指導者の確保とともに指導者研修をどのように行うかがあげられる。
- ・ 地域クラブの種目を増やしていくうえでは、ガイドラインや指導者公募（教員の兼職兼業含む）の仕組みの整備が不可欠である。

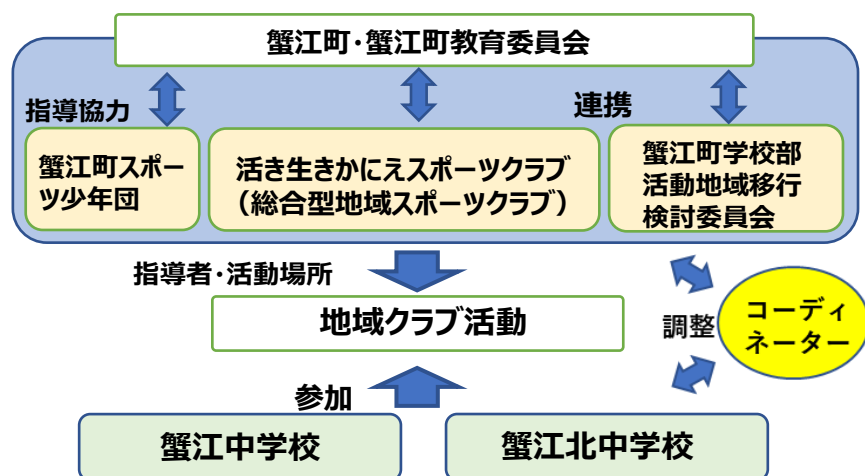
令和5年度実施アンケートより：部活動地域移行への関わりについて



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育課・生涯学習課）

- ・ 蟹江町学校部活動地域移行検討委員会の設置・開催
- ・ 事業計画・推進
- ・ コーディネーターによる学校や関係機関との連絡調整、先進事例の調査、情報収集

◎首長部局（政策推進課・総務課）

- ・ 広報誌、ホームページ等による情報提供（政策推進課）
- ・ 財政措置（総務課）

年間の事業スケジュール

- 4月 ・年間計画作成
 - ・学校、担当課、コーディネーター、再委託先との連絡会
- 5月 ・剣道クラブ参加者募集チラシ配布
- 6月 ・剣道クラブ参加応募一次締切
 - ・学校部活動地域移行検討委員会（令和7年 第1回）
- 7月 ・教員の兼職兼業での指導者について検討
- 8月 ・剣道クラブ指導者と詳細打ち合わせ
- 9月 ・剣道クラブ活動開始
 - ・学校、担当課、コーディネーター、再委託先との連絡会
- 10月 ・学校部活動地域移行検討委員会（令和7年 第2回）
 - ・愛知県教育委員会視察
- 11月 ・教員の兼職兼業での指導者募集開始
 - ・次年度地域クラブの種目確定
- 12月 ・一般の指導者募集について検討
 - ・町ガイドラインについて検討
 - ・剣道クラブ参加者アンケート実施
- 1月 ・学校部活動地域移行検討委員会（令和7年 第3回）
 - ・町議会民生教育常任委員会委員視察
- 2月 ・学校部活動地域移行検討委員会（令和7年 第4回）
 - ・ソフトテニスクラブ体験会開催（参加者アンケート実施）
- 3月 ・町ガイドライン作成

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1クラブ（2部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
かにえ剣道クラブ	教育委員会・総合型地域スポーツクラブ	剣道	・平日 0回 ・休日 11回	午前9時～12時	1年生5人 2年生5人 3年生3人	9月～2月	3人 (1回につき2人出席)	4人	0円	中体連：部活動 町少年剣道大会：地域クラブも可

※町少年剣道大会においては、地域クラブからの参加可として呼びかけをし、出場を検討した参加者もあったが、実際には大会に出なかった。

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和8年度に立ち上げる予定のソフトテニスクラブの体験会を実施
- 日程：令和8年2月21日（土）
- 時間：小学生の部：午前9時～午前10時15分 中学生の部：午前10時30分～12時
- 参加者：小学6年生3人、中学1年生22人、中学2年生13人
- 指導者：1人（他ボランティア参加6人）
- 参加費：無料

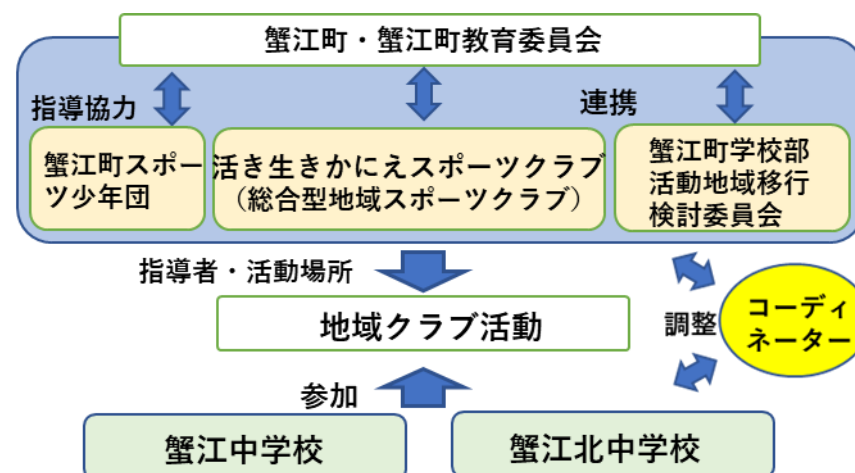
2.実証内容と成果

主な取組例

●かにえ地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	教育委員会・活き生かにかえスポーツクラブ (総合型地域スポーツクラブ)
期間と日数	月2回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者
活動場所	蟹江町体育館
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等 (年額)	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり： 1,850円/年 (64歳以下) 1,200円/年 (65歳以上)

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：活動計画、場所の確保、指導者依頼、謝礼の支払い等を行う

●活き生かにかえスポーツクラブ

役割：出欠状況の管理、参加者へのアンケート調査等を行う

●主任指導者 1名

役割：技術指導、活動報告書の作成、他の指導者との調整を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 蟹江町学校部活動地域移行検討委員会での地域移行の方向性の検討
- ・ コーディネーターによる、学校や関係団体との調整
- ・ 総合型地域スポーツクラブと協働での地域クラブ運営
- ・ 町独自のガイドラインの作成
- ・ 指導者研修制度の検討
- ・ コミュニケーションツールを使った連絡網の整備
- ・ コーディネーター、学校担当者、町担当者、総合型地域スポーツクラブ担当者出席の連絡会開催

取組の成果

- ・ 委員会による検討により、町としての方向性を見極めることができた。
- ・ コーディネーターによる調整により、地域移行の取組についての意識のすりあわせができ、実現性をもった計画を立てることができた。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ（活き生きかにえスポーツクラブ）と協働で運営することで、地域主体型の運営モデルを検証することができた。
- ・ ガイドラインを作成することにより、運営主体と実施主体の立場、安全な運営、責任の主体の明確化等の整理ができた。
- ・ LINEを使った連絡網により、スムーズにクラブ運営ができた。
- ・ 学校担当者を含めた連絡会の開催により、それぞれの役割が明確になり、移行の推進につながった。

今後の取組における課題

- ・ 令和7年度の実証では、剣道クラブのみであったため、今後参加が多い種目や、多数のクラブを運営していくことについて、場所の確保やスケジュール管理について、どのようにすれば円滑にできるかが課題である。
- ・ 指導者研修制度については、近隣市町村と連携をとって実施できないか探っているところであり、まだ確立できていないので、今後の調整が必要である。

課題への対応方針

- ・ 参加者が多い種目のクラブの運営の感覚をつかむために、令和8年2月にソフトテニスクラブ体験会を開催した。38名の参加があり、予備のコートを整備して指導者や運営を担っていく活き生きかにえスポーツクラブスタッフとともに動きを確認した。この経験を活かし、指導者と相談しながら運営を考えていく。また、複数のクラブ運営についてはコーディネーターによる調整をもとに、スケジュールを組み立てていく。
- ・ 指導者研修制度については、改めて近隣市町村と調整をとっていくとともに、独自の研修制度についても検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・ 学校へ出向いて各校の校長や担当者、顧問と面談し、直接地域クラブへの理解を求め、移行についての意見聴取や、取組への協力依頼を行った。
- ・ 県や近隣市町村担当者の会議に出席し情報交換を行った。
- ・ 学校や他市町村等の情報を組織の中や、運営の一部を担う生き生きにえスポーツクラブへ伝達し情報共有をはかるとともに、連絡会を開いて意見のすり合わせを行った。
- ・ 収集した情報を元に、地域移行についての計画や指導者要領等の案を作成した。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・ コーディネーター、学校担当者、町担当者、総合型地域スポーツクラブ担当者が出席する連絡会を開催し、地域クラブの運営について話し合い、調整する場を設けた。
- ・ LINEを活用し、活動日程についての連絡や参加者の出欠確認等を効率的に行った。
- ・ 次年度以降、地域クラブの種目が増えることを見越して、クラブ活動を管理するアプリの導入を検討し、事業者から説明を受けた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・ 蟹江町の「かにえ地域クラブ活動（部活動の地域展開）」に関するガイドラインを作成し、趣旨、基本方針、活動環境整備について明確にし、環境整備の中に参加者の安全確保についての項目を設けた。
- ・ ガイドラインには、安全確保の項目の他にも、適切な指導と活動の実施、保険の加入、会費の設定と適切な会計処理の項目を設け、対応を明記した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・ 地域クラブ活動に関するガイドラインの、参加者の安全確保についての項目の中で、気候・天候や災害時の対応、参加者の健康管理、事故発生時の対応、参加者同士のトラブル発生時の対応等について明記した。
- ・ トラブル発生時には、速やかに指導者は運営本部に連絡して状況を報告し、運営本部は経緯等を教育委員会へ報告し、教育委員会が学校と協議等を行い、適切に対応することとした。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 町立の小中学校の教員に兼職兼業で携わってくれる指導者の募集を呼びかけた。
- 指導者募集要領を作成し、町独自の登録制度による人材確保の手段を確立した。
- 指導者研修について、関係部署や近隣の自治体と情報交換を行った。

取組の成果

- 兼職兼業で指導者に携わりたい人材を15名確保することができた。
- 町独自の人材確保の手段が確立できたことにより、今後さらに多くの指導者を確保できることが期待できる。
- 指導者研修について近隣の自治体と合同で実施する案を検討した。また、消防本部からはAED研修への協力が可能だという見解をいただいた。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 小中学校の兼職兼業での従事者を募るほか、指導者募集要領を定め、町独自の登録制度による指導者確保を行うこととした。
- 蟹江町にグラウンドを有する愛知大学に打診をし、大学生の参画について可能性を探った。

今後の取組における課題

- 兼職兼業で携わる教員が、異動により指導から離れることが心配される。
- 指導者登録制度の周知
- 指導者研修については、まだ全体の方向性が定まっておらず、なるべく早く方向性を決めなければならない。

課題への対応方針

- 指導から離れる指導者があってもその穴が埋められるよう、指導者登録制度についてのチラシを配布する等して周知を行い、多くの指導者候補を確保する。
- 研修制度について具体的に話し合い、方向性を決めて実施できるようにする。

指導者研修の内容

- 指導者研修については、まだ確立できていないが、指導者研修を行う場合は、指導者心得等に加え、消防本部の協力によりAED講習を行うことを想定している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・ 蟹江町学校部活動地域移行検討委員会の委員として、スポーツ推進委員、地区スポーツ協力員、スポーツ協会、スポーツ少年団の代表者に加わっていただいた。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ（活き生きかにえスポーツクラブ）代表者に検討委員会の委員になってもらうとともに、当クラブに運営の事務の一部を委託し、連携をとりながら地域移行に取組んだ。

取組の成果

- ・ 検討委員として加わっていただいたことで、各団体の意見を吸いあげるとともに、協力体制を強化することができた。
- ・ 活き生きかにえスポーツクラブに運営事務の一部を委託することで、地域主体型の運営モデルを検証することができた。

地域公共交通との連携に関する取組

- ・ なし（面積約11km²の蟹江町においては、自転車での移動が可能のため）

今後の取組における課題

- ・ スポーツ推進委員から委員として意見をいただくだけでなく、地域移行にも関わってもらうにはどうしたら良いかが課題である。
- ・ 総合型地域スポーツクラブが運営の一部だけでなく、今後の運営の大部分を担っていめるように、組織力の強化や、さらなる連携体制を構築していくことが必要である。

課題への対応方針

- ・ 引き続き、各団体と連携を取っていく。
- ・ スポーツ推進委員に、今後ニュースポーツ等の新たな種目を担ってもらえないう等、さらに大きくかかわってもらうことも検討する。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- ・ スポーツ推進委員から、町外研修で得た部活動の地域移行についての関連情報の提供をいただいた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ・ 剣道クラブの参加者及びソフトテニスクラブ体験会参加者・保護者へのアンケート実施
- ・ 参加募集チラシや参加者アンケート等に地域クラブについての説明を記載
- ・ 剣道クラブ及びソフトテニスクラブ指導者へのヒアリング

取組の成果

- ・ アンケートに回答した剣道クラブ参加者の満足度は90%だった。また、令和8年度も続けたいという回答は100%だった。
- ・ 剣道クラブの指導者へのヒアリングでは、月2回の練習回数を4回に増やしてはどうかという意見があった。
- ・ ソフトテニスクラブ体験会参加者の中で、地域クラブに参加したいという回答は49%、これから考えたいという回答は48%だった。
- ・ ソフトテニスクラブ体験会では、部活動を引退した中学3年生のボランティア参加や、中学生の部にも参加した小学生もあり、交流ができた。
- ・ ソフトテニスクラブ指導者へのヒアリングでは、多くの生徒が活動することになるので、場所の確保や整備が必要だという意見や、生徒の技術や意欲の違いへの対応が課題だとの意見があった。

今後の取組における課題

- ・ 剣道クラブの活動を続けたいという生徒の中には3年生もいたので、OBやOGが参加しやすい仕組みをどう整えるかが課題の一つだと感じた。
- ・ 剣道では指導者は月4回に増やしたいという意見だったが、参加者アンケートでは2回が適当だという意見がほとんどであり、指導者と参加者の意識の違いがあると感じた。
- ・ ソフトテニスクラブの指導者の指摘のとおり、参加者が多い場合は特に場所の確保・整備や多くの参加者とどう向き合うかが課題となる。

課題への対応方針

- ・ OBやOGの参加には、その意思確認や保険の加入、参加費の負担をどうするか等を考慮に入れ、検討する。
- ・ 剣道クラブについては、参加者の意見を尊重して令和8年度も原則月2回で実施することを指導者に納得してもらった。
- ・ ソフトテニスについては、予備のコートの整備を行い、活動できる場所を確保する。また、生徒の意欲によって自由に参加できる強化指導の回を設けることも検討する。他の種目についても、現場の意見を聞きながら対応する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・ 困窮世帯の参加費負担軽減の検討を行い、関係課と対応できる方法について確認をした。
- ・ ソフトテニス体験会参加者の保護者に対して実施したアンケート調査の中で、受益者負担についての説明と、妥当な負担額についての意識調査を行った。
- ・ クラブ活動運営に必要なコストのについて検証し、と受益者負担額がどれくらいなら妥当かの検討をした。

取組の成果

- ・ 令和7年度は参加費無料としたが、今後の受益者負担を見越して、学校教育での困窮世帯への支援の仕組みについて確認した。
- ・ ソフトテニスクラブ体験会参加者の保護者へのアンケート結果では、妥当な負担額は、月に1,000円以内が37%、3,000円以内が47%、5,000円以内が13%、その他（2,000円ほど）が3%であった。
- ・ 受益者負担額について、担当者の話し合いでは1回500円程度でできることが望ましいという意見が出ている。

今後の取組における課題

- ・ 困窮世帯の参加費負担軽減は、運営主体が生き生きかにエスポーツクラブが徴収する場合は、個人情報の保護や軽減方法等、どのような仕組みが一番良いか考える必要がある。
- ・ 参加者が少ない場合の対応
- ・ 参加費の額だけでなく、集金方法も課題である。（年会費か、月会費か、チケット制か、現金か、振込か、電子マネー対応ができるか、等）

課題への対応方針

- ・ 困窮世帯への対応や参加費の額については、近隣の自治体の対応も参考に検討していく。
- ・ 参加費の額については、近隣の自治体の対応を参考にしつつ持続可能な運営が実現できるよう設定をする。
- ・ 参加費の集金方法については、部活動アプリの集金ツールの導入等を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ソフトテニス体験会において、中学校のテニスコートに加え、屋外バレーボールコートサブコートとして使用することとし、整備を行った。
- 蟹江町立学校体育施設開放に関する条例施行規則を改正し、利用できる団体について、「中学校部活動地域展開により活動するクラブ」を記載した。
- 必要に応じて中学校の担当者との調整を行う連絡会を開催し、地域クラブの活動について相互確認を行っていくこととした。

取組の成果

- テニスコートを整備して活用したことによって、今後の地域展開でも活用できることが実証できた。
- 規則改正により、地域クラブで学校施設を活用していくことが明確にすることができた。
- 中学校の担当者との連絡会を開催することによって、活動場所等についても連絡が取りやすくなった。

今後の取組における課題

- 令和8年度以降、地域展開により段階的に地域クラブの運営が多数始まる一方で学校の部活動も残っている過渡期において、活動場所の確保のためのスケジュール調整が課題となる。
- 一般指導者のみの指導で活動することになる場合、学校の体育館等の鍵の管理をどう行うかが課題となる。

課題への対応方針

- 事前に計画をしっかりと立て、指導者や部活動の担当教員と調整を行い、情報共有を行うことが重要になる。
- 鍵の管理については、委託管理者による対応のほか、スマートキーの導入も検討し、どのような用法が当町の地域クラブ運営にとって一番入稿なのかを考慮し、対応していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・ 剣道クラブについては、2つの町立中学校のうちの1校で9月から休止する部活動があり、その中から、個人種目であり、指導者確保の目途が立った剣道で実施することとした。5月に参加者募集を行い、9月から11回の活動を行った。2つの中学校の1年生から3年生13人が所属し、剣道を続けたい生徒の活動を支える一助となった。運営にあたっては、生き生きかにエスポーツクラブに一部委託し、LINEによる連絡網の活用等の実証も行った。
- ・ 剣道クラブの実証のほか、令和8年度に立ち上げる計画の、ソフトテニスクラブの体験会を行った。剣道よりも参加人数が多くなることが予想される種目であり、その動きの検証と、学校のコートの活用の実証が目的であった。小学6年生も対象とし、38名の参加があり、参加者や保護者へのアンケートを実施し意見聴取も行った。
- ・ 体制整備として、学校、保護者、関係機関代表で構成する蟹江町学校部活動地域移行検討委員会で地域移行の取組について検討したほか、コーディネーターによる調整を行った。
- ・ 実証の経験をふまえ、町独自のガイドラインを作成するとともに、指導者確保のため、兼職兼業のしくみや指導者募集要領も定め、今後、多数のクラブの運営が適切にできるベースができた。

●成果の評価

- ・ 地域クラブの実証においては、当町では初の試みであったため、まずは剣道一種目での実証となった。教員ではないスポーツ少年団の指導者による指導や2つの中学校の生徒が一緒に行う活動、学校の部活動では9月に引退となる3年生の参加等、地域クラブならではの活動となった。生き生きかにエスポーツクラブに運営の一部を委託して実証をすることで、今後の地域クラブ運営のビジョンをつかむことができた。
- ・ ソフトテニスクラブ体験会では、剣道クラブの活動ではできなかった、多数の参加者での活動や、学校施設の活用の実証をすることができた。今後クラブの種目を増やしていくうえで、良い指標となった。また、参加者や保護者にアンケート調査を実施したことで、地域クラブに対する意識の掌握や理解促進につなげることができた。
- ・ 検討委員会でさまざまな角度からの意見をいただいたことにより、実現可能な方針を立てることができた。また、コーディネーターの活躍により、学校との調整や情報共有がスムーズにできた。
- ・ ガイドラインや指導者募集要領を定めたことで、しっかりとした指針のもと、取組めることとなった。地域クラブ拡大に向けて、大きな一歩となった。

●今後に向けて

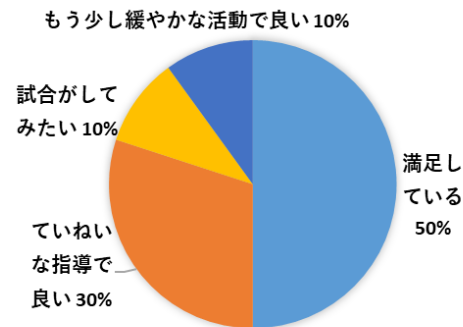
- ・ 令和8年度は、8つの地域クラブ運営へと拡大し、令和9年9月には、休日の全ての部活動を地域展開する計画である。本年度の実証の経験値を活かすとともに、指導者を確保し、ガイドラインに沿って、関係各位の協力を得ながら、事業を推進していく。
- ・ 今後は、受益者負担や部活動アプリの導入、学校施設の活用の際の施設管理等についても検討し、持続可能な活動とすることを目標とする。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●剣道クラブ参加者アンケート結果

Q.剣道クラブの活動内容についてどう思いますか？

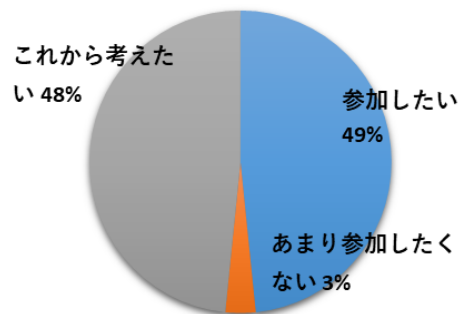


Q.令和8年度もクラブ活動を続けたいと思いますか？

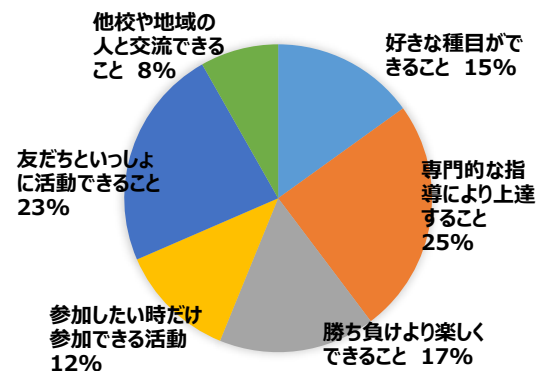


●ソフトテニスクラブ体験会アンケート結果

Q.あなたは地域クラブに参加したいと思いますか？



Q.地域クラブに期待することは何ですか？



●参加者/関係者の声

剣道クラブ参加者

中学校の部活動が9月から休止となってしまったので、活動が続けることができてうれしい。

剣道クラブ指導者

専門的な指導を受けたことがなかった生徒もあったので、指導ができてよかった。剣道をやったことがない子にも、もっと参加してもらいたい。

ソフトテニスクラブ体験会参加者の保護者

娘が小学6年生で、中学生になったらソフトテニスをやりたいというので、参加した。ソフトテニスは初めてだったが、楽しく体験できてよかった。

ソフトテニスクラブ体験会指導者

令和8年度に立ち上げる地域クラブは、2つの中学校の男女の生徒と一緒に活動する予定なので、多くの参加者での活動シミュレーションができて良かった。

2.実証内容と成果③

参考資料



令和7年11月29日剣道クラブ活動（蟹江町体育館）



令和8年1月24日剣道クラブ活動を町議会議員が視察



令和8年2月21日ソフトテニスクラブ体験会（蟹江北中テニスコート）



令和8年2月21日ソフトテニスクラブ体験会（整備したサブコート）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

アンケート実施

令和6年度

蟹江町学校部活動地域移行検討委員会設置による検討開始

剣道クラブ実証の決定

部活動改革（地域クラブ）についての周知チラシ作成・配布

令和7年度

地域クラブ活動の実証事業

地域クラブの拡大の計画・町ガイドライン作成

●蟹江町学校部活動地域移行検討委員会

中学校の部活動を地域移行するにあたり、地域クラブの方針や体制整備を検討するための委員会を設置

●経過

令和6年4月1日要綱制定、6月1日12名の委員を委嘱し、令和6年度に3回、7年度に4回会議を開催

●実施にあたって生じた課題

当初、まずは地域移行について各委員に理解してもらうことが課題だった。

●実施内容、工夫した点等

- ・国のガイドライン、先進事例の動画等を見ていただき、理解を得た。
- ・仕事をしている方も出席できるよう、午後7時から会議を行った。
- ・会議でまとめきれなかった案件については、書面で委員に意見を求めて確認する等した。

●部活動改革についての周知チラシ作成・配布

地域クラブ創設等、部活動改革についてのチラシを作成して小中学生に配布した。

●経過

令和7年3月4日の検討委員会で内容を承認いただき、3月14日付けで小中学校を通じて児童生徒に配布。（右は表面）

●実施にあたって生じた課題

・小中学生やその保護者に、いかに理解していただける内容とするか。

・配布する教員の理解があるか。

●実施内容、工夫した点等

- ・検討委員の意見を反映して見やすい図や、裏面にQ&Aを掲載する等した。
- ・周知することで、地域クラブ活動への理解が高まった。
- ・教員に対してはコーディネーターが説明を行った。



●町ガイドライン作成

剣道クラブ活動の実証をふまえ、令和8年度に地域クラブを拡大するにあたって必要となる、町独自のガイドラインを作成した。

●経過

令和7年10月の委員会で素案を示し、1月、2月と検討を重ね、3月から運用とした。

●実施にあたって生じた課題

必要な項目がきちんと盛り込まれ、かつ、実効性のある内容にするにはどうすべきか。

●実施内容、工夫した点等

- ・国のガイドラインや他自治体のガイドラインを参考にしつつ、当町に合った内容のガイドラインを作成した。
- ・案の作成にあたっては、事務局だけでなく、運用主体となる生き生きかえスポーツクラブと協議し、情報共有しながら取組んだ。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年

令和9年

令和10年

令和11年

令和12年

令和13年

体制整備

蟹江町学校部活動地域展開検討委員会による方向性の検討
コーディネーターによる調整

平日の活動

当面は学校部活動を続けつつ、地域展開を目指す

休日の活動

剣道、野球、
男子バレーボール、
ハンドボール男子、
ハンドボール女子、
ソフトテニス男女、
卓球女子、
サッカー等の
地域クラブ活動

令和9年9月 地域クラブ本格始動

- * 令和9年8月で休日の部活動は終了、全ての種目で地域クラブ活動を行う
- * 運営は生き生きかにえスポーツクラブが中心となって行う
- * 部活動アプリを使用した運営管理、受益者負担の導入
- * 本格始動とともに、受益者負担も視野に入れる

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県阿久比町

自治体名：愛知県阿久比町

担当課名：教育委員会社会教育課

電話番号：0569-48-7311

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	23.80km ²
人口	28,045人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	1,087人
部活動数 (運動部活動のみ)	17部活
地域クラブ活動数	4クラブ
市区町村の協議 会・検討会議等 の設置状況	設置済
市区町村の推進計 画・ガイドライン等 の策定状況	策定済

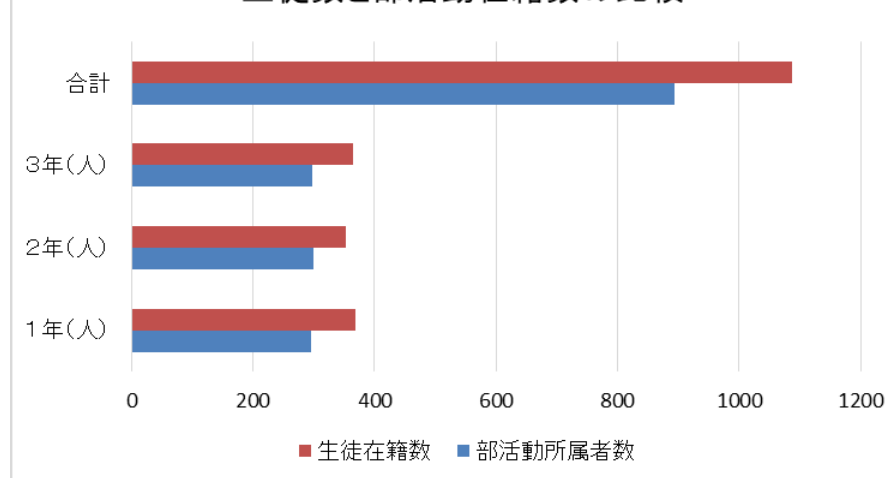
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

令和4年より学校部活動の自由参加を導入しており、在籍する生徒のうち8割弱が活動している。在籍者は894人で1年生296人、2年生300人、3年生298人である。(令和7年5月現在)主に休日の部活動の地域連携として、外部指導員が22名在籍しており、軟式野球、柔道、サッカー、陸上、バレーボール、バドミントン、合唱、新体操、造形、卓球の種目を教職員とともに指導している。

現在は、教職員の精力的な活動によって支えられているが、教職員の在校時間の増加、指導者としての経験の浅さ等が問題となっており、また参加する生徒の意識の変化等により以前のような部活動の形を保てなくなりつつある。

令和5年11月から先行実施したバドミントン部における地域移行が一定の期間が経ち、今年度は既存の方向性を進めつつも、新しい方針の策定のための行動を実施した。来年度の地域展開に向けて、具体的な体制整備や指導者の確保に努める。

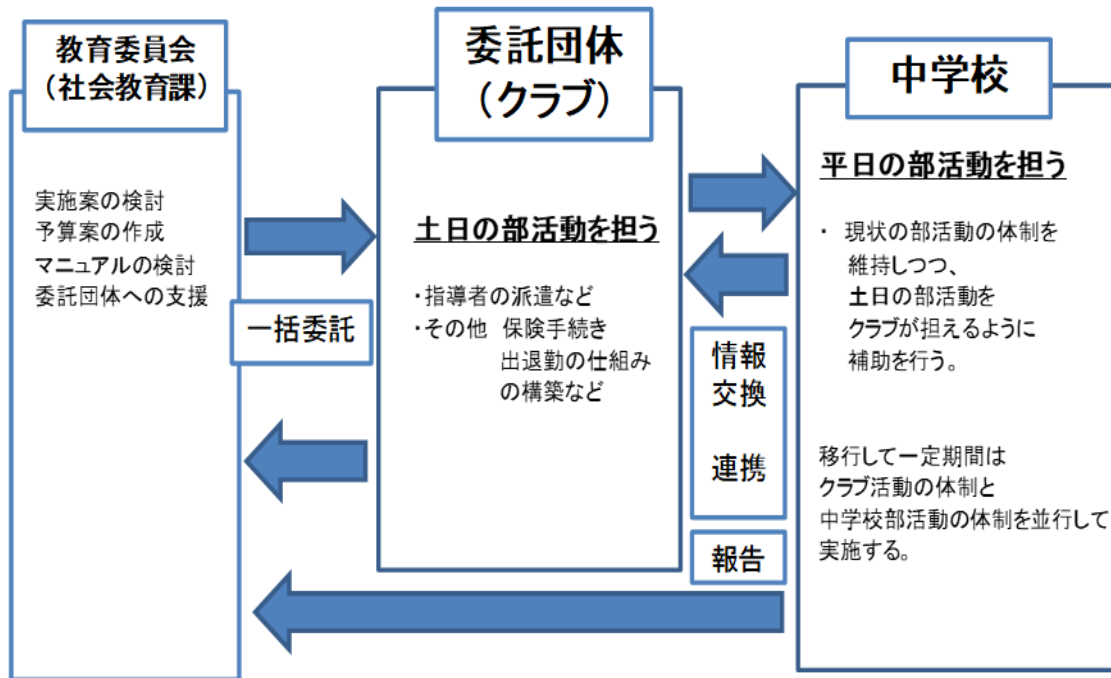
生徒数と部活動在籍数の比較



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会 (社会教育課)

- ・ 計画の立案及び運営を担当。
(検討委員会の開催、委託団体への支援等)

年間の事業スケジュール

令和7年4月	委託先との再契約 地域移行開始 バドミントン、柔道、新体操 毎月 指導を実施
令和7年4月	令和6年度の振り返り
令和7年5月	教育委員会、委託業者会議
令和7年6月	令和8年度地域展開検討会議
令和7年8月	令和8年度推進計画策定
令和7年12月	サッカー地域移行開始
令和8年1月	令和8年度地域展開 保護者説明会開催
令和8年2月	指導者募集開始

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		4クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	4クラブ（4部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
バドミントンクラブ	有限会社 プレジャー企画	バドミントン	・休日 月4回	8:00～17:00 の3時間程度	38人	令和7年度	1人	1人 (内、兼務0人)	0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
柔道クラブ	有限会社 プレジャー企画	柔道	・休日 月4回	8:00～17:00 の3時間程度	12人	令和7年度	2人	2人 (内、兼務0人)	0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
新体操クラブ	有限会社 プレジャー企画	新体操	・休日 月4回	8:00～17:00 の3時間程度	14人	令和7年度	1人	1人 (内、兼務0人)	0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
サッカークラブ	有限会社 プレジャー企画	サッカー	・休日 月4回	8:00～17:00 の3時間程度	23人	令和7年度	1人	1人 (内、兼務0人)	0円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

なし

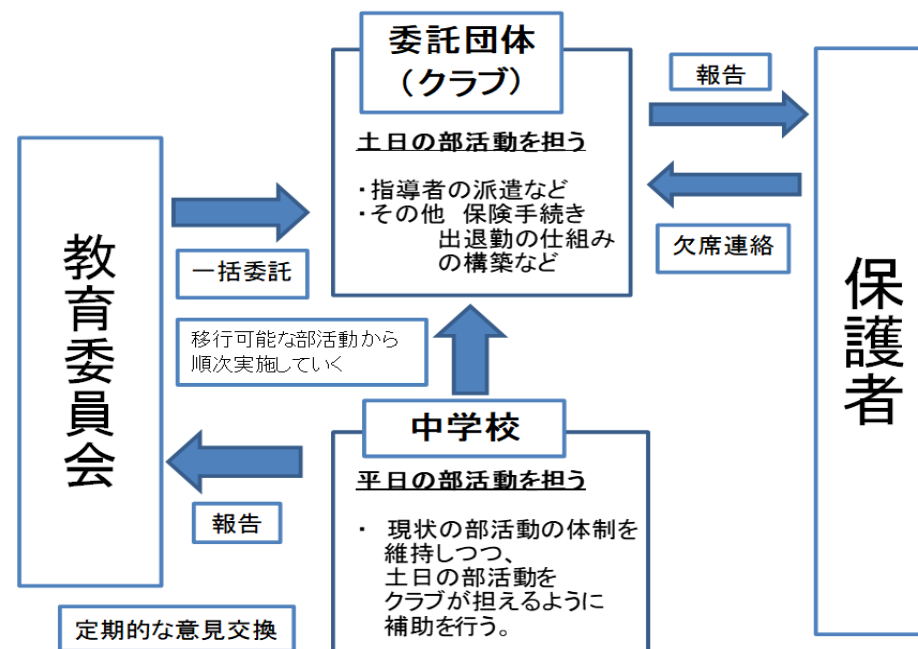
2.実証内容と成果

主な取組例

●バドミントンクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、柔道、新体操、サッカー
運営団体名	有限会社プレジャー企画
期間と日数	バドミントン：月4回程度 柔道：月4回程度 新体操：月4回程度 サッカー：月4回程度
指導者の主な属性	地域クラブ指導者
活動場所	阿久比中学校
主な移動手段	自転車及び徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 教育委員会
役割：委託団体の支援、定期的な報告書のとりまとめ等
- 委託団体
役割：指導者の勤怠管理、報酬支払、指導者の保険加入
- 指導者
役割：実技指導、大会・練習試合引率

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 法人に事業を委託することで、学校や教育委員会の橋渡しを円滑に行うことを目的に実施した。
- 教育委員会は、主に今後の地域展開の実施計画や関係諸機関との連絡調整。委託団体は、指導者の派遣、勤怠管理、指導者報酬、指導者の加入業務を行った。

取組の成果

- 委託団体の役割が指導者の勤怠管理・報酬支払等に焦点化されたことで、教育委員会が行う業務が明確になった。
- 委託団体にすべてを任せるのではなく、教育委員会が中心となって関係者と連携をとり、今後の体制づくりを検討することができた。
- 令和5年度から令和7年度までの先行実施で明らかになった課題を洗い出し、令和8年度からの方針を策定することができた。

今後の取組における課題

- 教育委員会主導の運営に切り替え、一度運営体制の見直しを図り、本町に合った地域展開の方針を構築する。
- 教育委員会主導の地域展開中に、第3セクターへの展開を検討し、持続可能な運営体制の構築を模索していく。
- 既存の総合型スポーツクラブとの連携・整理。
- スポーツ協会への協力依頼。

課題への対応方針

- 持続可能な体制づくりのため、参加者から会費を徴収し、指導者へ報償を支払う。
- 総合型地域スポーツクラブやスポーツ協会関係者と地域展開の方針等の共有を図り、総合型スポーツクラブとの併存を検討する。
- 拠点中学校との連携をより明確にし、生徒や保護者に向けたより具体的な情報を発信し続けていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・教職員の兼職兼業を認めることで、教職員が自らの意志で地域クラブの指導者に登録できるようにした。また、外部指導者を中心に、地域クラブの指導者として、休日のクラブ活動への協力を依頼した。
- ・中学校職員、外部指導員に向けた説明会の実施。
- ・地域に向けた説明会の開催と情報発信。

取組の成果

- ・兼職兼業を認めたことで、4月の異動で本町中学校勤務ではなく他市町の小学校勤務になった教職員や再任用職員が地域クラブの指導者となり、指導内容を変更することなく移行することができた。
- ・長年部活動に携わっていた外部指導者が、地域クラブの指導者になったことで、部活動顧問と連携を図り、生徒に大きな負担をかけずに実施することができた。

今後の取組における課題

- ・拠点中学校にある部活動の地域展開を視野に入れているため、より多くの指導者の確保が必要である。
- ・生徒を安心して任せられる指導者の認定。安全な指導のため方策。
- ・平日部活動と休日クラブ活動との連携。
- ・地域への情報発信。

課題への対応方針

- ・スポーツ協会や既存クラブチームに指導者の派遣・協力依頼をする。
- ・部活動顧問や外部指導員への継続的な働きかけをするとともに、平日部活動と休日クラブ活動の連携が図れるように、情報交換の場を設ける。
- ・指導者面談や指導者研修を丁寧に行うとともに、運営主体である事務局も活動場所への定期的な巡回を行う。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ・ 運営方法の再検討と実施活動数の増加を目標に実施してきた。
- ・ 昨年同様、事業を他団体に委託することで、事業が円滑に行えるような体制づくりを構築することを目指した。
- ・ 地域の実情に合った地域クラブの運営方法や実施計画の立案に向けて、拠点中学校と定期的な検討を重ねた。
- ・ 実施活動数の増加はできたが、指導者の確保が大きな課題である。
- ・ 本年度までの課題を整理し、次年度の地域展開に向けて、持続可能な体制づくりの構築に努める。

●成果の評価

- ・ 委託団体の業務内容が指導者の派遣、指導者の勤怠管理、指導者の報酬支払い、指導者の保険加入と指導者に関わる業務に集中することで、円滑に事業を行うことができた。
- ・ 教職員の兼職兼業を認めたことで、実施活動数や指導者派遣人数が増加した。
- ・ 教育委員会内や拠点中学校と協議を重ね、令和7年度までの先行実施中の課題を洗い出し、令和8年度の本格実施に向けた方針の策定や地域への説明会を実施することができた。

●今後に向けて

- ・ 地域展開の方針を地域や保護者、生徒に情報発信をし続けるとともに、より多くの指導者や保護者等の協力者を募る。
- ・ 総合型地域クラブやスポーツ協会、地域団体との連携を図る。
- ・ 令和8年度の本格実施に向けて、課題の整理、制度の見直しを繰り返しながら、本町の持続可能な地域展開の体制を構築する。

2.実証内容と成果②

参考資料



【バドミントンクラブ指導風景】



【柔道クラブ指導風景】



【新体操クラブ練習風景】



【サッカークラブ指導風景】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

教育委員会、
中学校で検討
開始

素案の作成
有識者会議

令和6年

運動部活動
試行実施

結果の振り返り

令和7年

先行実施クラブ
開始

令和8年

地域クラブ活動
の開始

- 検討開始
- 【ステークホルダー】
教育委員会及び中学校
- 【経過】令和4年4月から
教育委員会が主体となり、学校と实施方式
について検討を重ねる。
- 【課題】
指導員、参加費、実施場所等
- 【実施内容等】
 - ・ 状況の確認と問題点の洗い出しを行った。
 - ・ 学校、町が介在しない形での団体委託が望ましいという結論に至り、本事業を担える団体の選定を開始した。
 - ・ 試行実施内容を外部指導員が指導している部活動において実施することに決まった。

- 運動部活動試行実施
- 【ステークホルダー】
阿久比中学校バドミントン部
- 【経過】
令和5年11月から
- 【課題】
 - ・ 所属した指導員は1名であり、普遍的なスキームを作ることが出来なかった。
 - ・ 文化部活動において、振り返り結果を反映させる必要がある。
- 【実施内容等】
 - ・ 事業を委託し、外部の指導員のうち事業への協力を得られたバドミントン部にて試行実施を開始し、参加生徒への急激な環境の変化を避けるため、当該部活動の顧問教諭と一緒に活動を行った。

- 教育委員会、
中学校検討会議
- 【ステークホルダー】
委託業者
- 【経過】
事業開始後より定期的に
実施
- 【実施内容等】
 - ・ 試行実施に伴う問題点や、今後の方針についての検討を実施し、今後の方針等について話し合いを行う。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ[°]

令和8年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
● 地域向け説明会 ● 新入生説明会 (入学説明会の日程と合わせて)	● 指導者一般募集開始	● 指導者認定確定 ● 活動種目決定(令和8年度)	● 事務局始動 ● 保護者説明会 (PTA総会の日程と合わせて)		● 会員募集開始		● 指導者研修会 ● 顧問と指導者の連絡会	● 会費等集金開始 (その後も随時募集) ● 会員登録確定一次	あぐい地域クラブ活動開始	
	令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		令和12年度	令和13年度
国	改革実行期間(前期)					改革実行期間(後期)				
阿久比町	10月～ 「あぐい地域クラブ」 設立開始		「あぐい地域クラブ」への 移行期間			「あぐい地域クラブ」本格運営 (あぐい地域クラブ連盟(仮)立ち上げ検討) (総合型スポーツクラブ等の整理)				

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県知多郡東浦町

自治体名：愛知県知多郡東浦町

担当課名：こども未来部教育課

電話番号：0562-83-3111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	31.12km ²
人口	49,673人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	1,400人
部活動数 (運動部活動のみ)	27部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	一度策定したが、改革実行期間が示されたことを受けて、改訂中

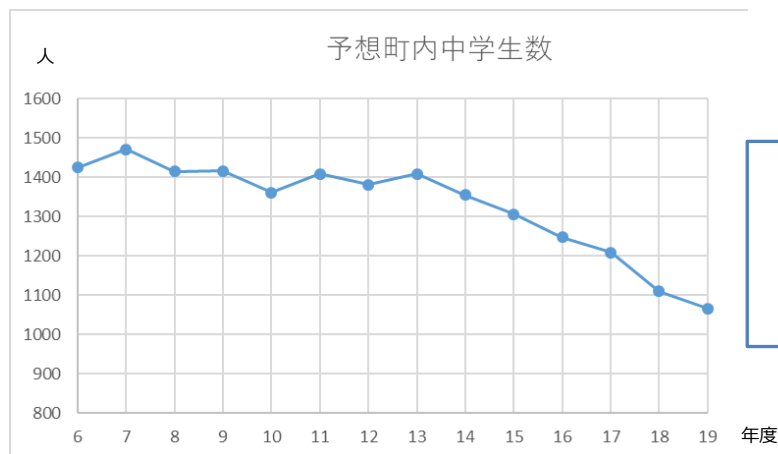
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

東浦町では、少子化の影響により、学区の活動（部活動）だけでは、自分の趣向や可能性を模索できる機会が年々減少していくことが想定されている。その中で、令和5年度9月から町内3中学校長の決定として、休日の部活動（練習）を行わない方針が示された。よって、本町では中学生が休日にスポーツや文化芸術活動等に親しむ機会を捻出するため、町内在住の中学生なら誰でも月額1,000円で入会できる「ひがしうら地域クラブ」を立ち上げた。文化芸術活動としては、吹奏楽（東浦中学校会場、北部中学校会場、西部中学校会場）、総合文化（書道、絵画）の2活動がある。

地域クラブの方針としては、活動に親しむことを主目的としているが、町内3中学校より、令和7年9月

以降は、夏の大会・コンクール以外に学校部活動として大会等には参加しないという方針が示されたため、本地域クラブとしても会員のニーズに応えるために、大会等への参加に向けて活動範囲を拡大していくことが課題となっている。

また、予算は町一般会計から歳出しており、受益者負担の考えをもっているが、受益者が中学生であることを考えると、全額受益者負担は相応しくないと考え、一部受益者負担にとどめている。指導者の方への報酬、会計年度任用職員への報酬、消耗品費等、直営の「ひがしうら地域クラブ」を継続して運営するための予算確保が課題となっている。



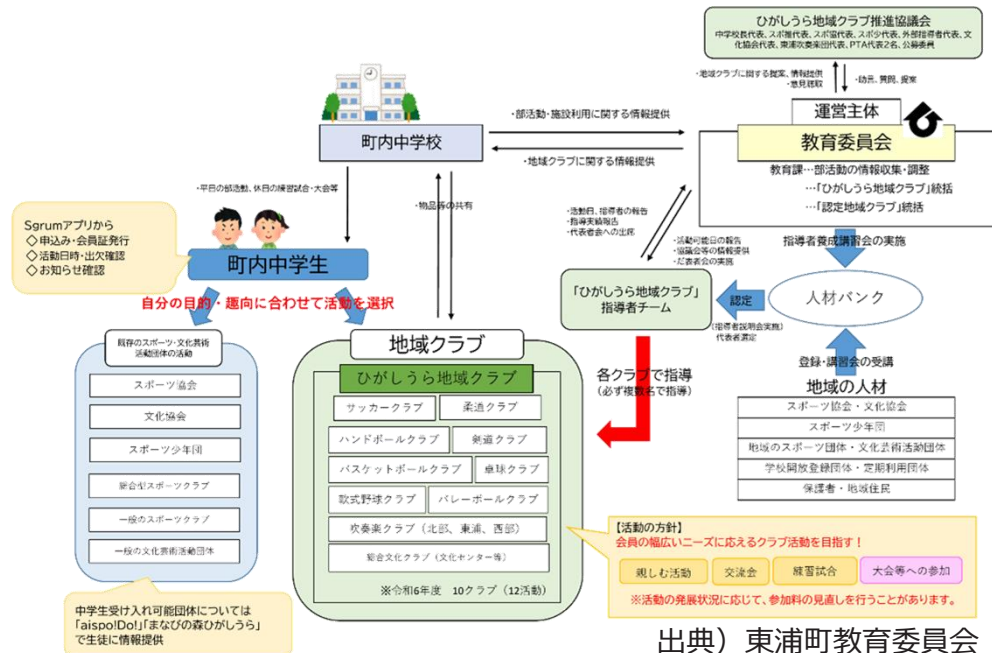
推定町内中学生数
年齢別男女別人口をもとに推定
(転入転出は考慮しない。)

出典) 住民基本台帳より

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育課）

- ・ 地域クラブ主管、スポーツ・文化芸術クラブ運営、中学校の情報収集・共有

◎首長部局

- ・ なし

◎コーディネーター

- ・ なし

年間の事業スケジュール

4月	地域クラブの運営
5月	地域クラブの運営
6月	地域クラブの運営
7月	地域クラブの運営
8月	地域クラブの運営 指導者養成講習会の開催
9月	地域クラブの運営 代表者会アンケート調査（会員・保護者）
10月	地域クラブの運営
11月	地域クラブの運営
12月	地域クラブの運営
1月	地域クラブの運営
2月	地域クラブの運営 指導者養成講習会の開催
3月	地域クラブの運営 代表者会アンケート調査（会員・保護者）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	0クラブ（0部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	1クラブ	
全体の指導者数	84人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
ひがしうら地域クラブ	自治体	サッカー、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、軟式野球、卓球、バレーボール	(平日) 必要に応じて不定期に開催 (休日) 年間各40回程度＋練習試合＋交流会＋大会参加	(基本) 9:00～12:00	3年：56人 2年：120人 1年：89人	通年	84人	4人 (内、兼務0人)	月会費 1,000円	(地域クラブ)部活動として参加しない大会で、指導者、会員の希望があったもの

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- なし

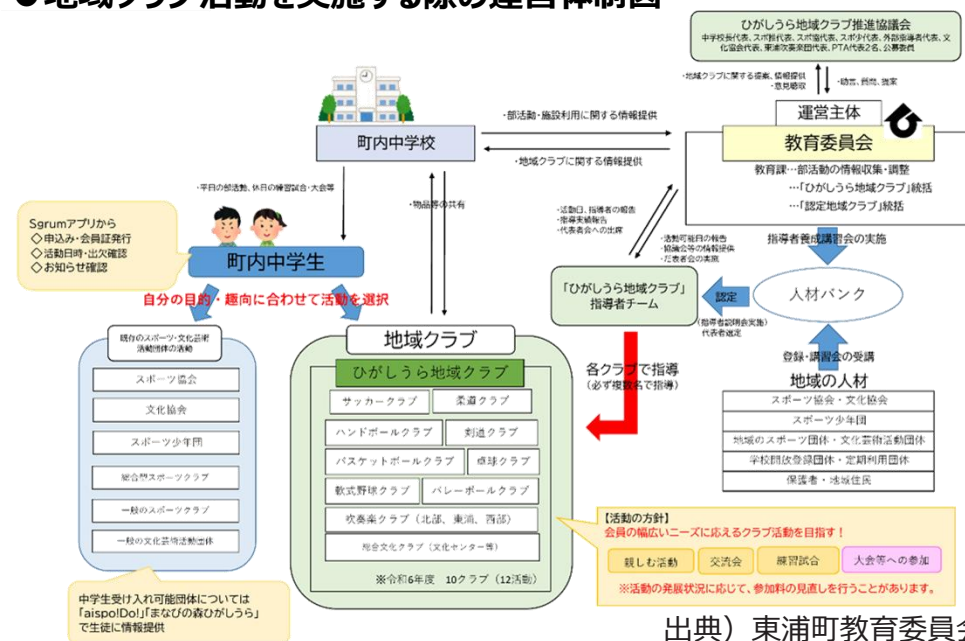
2.実証内容と成果

主な取組例

●ひがしうら地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、バスケットボール、ハンドボール、柔道、剣道、軟式野球、卓球、バレーボール
運営団体名	教育委員会
期間と日数	4月13日～3月31日 年間各40回程度＋練習試合＋交流会＋大会参加
指導者の主な属性	スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、部活動外部指導者、地域のスポーツ団体、学校開放団体、公共施設定期利用団体、保護者
活動場所	北部中学校、東浦中学校
主な移動手段	自転車、徒歩、送迎、公共バス
1人あたりの参加会費等（年額）	年額12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 指導者1人あたり：1,850円/年 会員は町が加入するふれあい保険で対応のため、自己負担なし

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



出典）東浦町教育委員会

●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 会計年度任用職員2名
役割：活動の安全管理、指導実績管理、会員の出席管理等を行う。
- 指導者（代表者）
役割：各クラブの活動日・指導者の決定、代表者会への参加、会員の安全管理、必要に応じて指導を行う。
- 指導者
役割：会員の安全管理、必要に応じて指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 令和4年度から「ひがしうら地域クラブ」推進協議会を立ち上げ、これまで9回の協議会を開催した。本クラブが立ち上がって2年が経過したことを受け、より現場の意見をクラブ運営に生かすために、令和7年度からはクラブの代表者（11名）による「代表者会」を中心に意見を募って方針決定をする。
- 運営主体を、教育委員会の生涯学習課・スポーツ課から教育課に移管する。そうすることで、今後も中学校との連絡調整を密に取りながら進めていけるようにする。
- 現在、地域クラブは教育委員会が運営するものだけであるが、要件を明確にしながら、地域の既存競技団体等を「認定地域クラブ」として認める取組を行っていく。

取組の成果

- 令和7年9月30日（金）に、前期の活動実績や後期・令和8年度の活動に向けた諸課題への対応を議題として、第1回「ひがしうら地域クラブ」代表者会を開催した。第2回を3月下旬頃、開催予定である。
- 運営主体を、教育委員会の生涯学習課・スポーツ課から教育課に移管したことで、施設利用や物品・大会案内等の情報共有が円滑に行えるようになった。その結果、通常活動とは別に、会員の多様なニーズに応えるために行う特別活動（交流会や練習試合、大会参加等）を令和6年度（22回）の約3倍となる74回（交流会や練習試合45回、大会参加29回）実施することができた。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、改革実行期間が新たに設定されたことや国が認定要件の概要を示すという情報を得たため、国の方針等を確認してから検討することとした。

今後の取組における課題

- 本クラブは活動に親しむことを主目的としているため、練習試合や大会参加等の特別活動については、基本的には通常活動とは別に行っている。そのため、今年度は夏季に熱中症予防対策等で活動を自粛した分の指導者報酬を活用して特別活動等を行ってきたが、来年度は対策をしながら夏季にも継続的に活動を行う方針であるため、特別活動の精選を行う必要がある。

課題への対応方針

- 指導者（代表者）との連携を強化し、指導者報酬残額等の情報を適宜提供しながら、必要な活動を精選して取組む。
- 大会などの特別活動への参加が増える見込まれるため、バス等の移動手段確保のための予算要求を行っていく。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、国の認定要件の概要と本町の目的（「新たな価値」の創出・普及）を照らし合わせながら検討を行い、改革実行期間（前期）を目標として制度設計を行う方針である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者に対して、モラルハラスメント研修等の指導者養成講習会を実施し、会員に対する接し方、安全管理等の知識・技能を身につけてもらう。
- 教育課職員及び会計年度任用職員が地域クラブの活動場所を巡視し、不適切な指導がないか等見回りを行う。

取組の成果

- 令和7年8月23日（土）、令和8年2月7日（土）に指導者養成講習会を実施した。
- 指導者に対して、ペップトーク等の指導者養成講習会を実施し、会員に対する接し方、安全管理等の知識・技能を身につけてもらった。その結果、保護者、会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは0件であった。
- 昨年度までは、スポーツと文化芸術活動を担当していた課にそれぞれ会計年度任用職員がいたが、情報共有が十分ではなかった。今年度からは担当課が教育課になったことで、それぞれが担当するスポーツや文化芸術活動だけではなく、教育課職員と3名で地域クラブ全体を分担して巡視し、隙間なく不適切な指導がないかを確認するようにしたため、より安全で健全な指導環境が確保できた。

今後の取組における課題

- 指導者養成講習会については、オンライン受講等ができる体制を整えていないため、指導者を追加できるタイミングが年間で2回に限られている。また、受講者の負担を考慮して、「町の方針」「モラルハラスメント研修」「救急法実習」の3講座としているが、より幅広い研修内容を提供できる体制を検討する必要がある。

課題への対応方針

- 研修動画に切り替えて、オンライン受講ができるようにすることも視野に入れて情報収集を進めていく。



指導者養成講習会
町ホームページ 二次元コード

https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoiku_kikaku/gyomu/1452567127897.html

指導者養成講習会 町ホームページ
URL

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 指導者については、生涯学習を担当する課で把握している団体（約250団体）に案内を送付したり、団体が主催する会議でプレゼンしたりして、指導者を集めた。
- 現在は、どのクラブにも10名前後の指導者が在籍しているため、指導者の採用は活動状況を鑑みながら精選して行っている。

指導者研修の内容

- 「ひがしうら地域クラブの在り方等に関する方針について」
東浦町教育委員会教育課 統括課長補佐兼指導主事 永井亮太
講義形式 30分
- 「育成年代における練習アプローチやペップトークの考え方とその実践」
一般社団法人フィジカルエクスペリエンス協会スポーツアカデミー
代表トレーナー 岡田康邦氏
講義形式 90分
- 「救急法実習」普通救命救急～AED実習と心肺蘇生について～
半田消防署 東浦支署員
実技形式 120分

指導者研修受講者の声

アンケートは実施していないが、東浦町の指導者になるためには、指導者講習会の受講を義務付けている。その結果、保護者・会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは0件である。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 令和6年10月から、会員の幅広いニーズにさらに応えるために、大会等への参加も行っている。その際、町内のスポーツ協会とも連携して参加規程等を修正してもらい、卓球クラブ、柔道クラブ、剣道クラブが地域クラブとして大会に参加することができた。今後も、他の種目についても連携を強化して、大会等に参加できる機会を捻出していく。
- 各競技の大会等の内容を把握するために、町内中学校に依頼をして、学校に送られてくる大会等の案内を教育委員会にも共有してもらおう仕組みを構築した。大会等に出場するために必要な手続きや物品を指導者と把握しながら、活動の幅を広げていく予定である。

取組の成果

- 町内において大会等を主催しているスポーツ協会と連携して、地域クラブから参加が可能となるように大会要項等を修正してもらい、剣道クラブ、柔道クラブ、卓球クラブで、昨年度に引き続き、大会（東浦剣道会長杯、秋季柔道大会、春季卓球大会、東浦町オープン卓球大会、冬季卓球大会）に参加した。また、新たにバスケットボール協会と連携し、バスケットボールクラブが「東浦町秋季バスケットボール大会」に参加した。
- 町内中学校から教育委員会に大会案内等を送ってもらう体制を構築したことで、今年度は令和6年（6回）の約5倍となる29回の大会に参加することができた。

今後の取組における課題

- さらに関係団体との連携を強化して、他クラブにおいてもニーズがあれば大会参加等が行えるように検討していく。
- 現在は大会主催団体から各小中学校への案内を情報源として大会参加を行っているが、今後他の自治体においても学校部活動が縮小し、大会主催団体から各中学校への案内が少なくなっていくことが想定されるため、学校に頼らない大会情報の入手源の確保が必要。
- 今後、大会参加を増やしていく場合に、参加条件として各競技の連盟等への登録や帯同審判が可能な人材確保の必要性がある。

課題への対応方針

- 会員からのニーズがあるため、町内軟式野球協会との相談を進めている。令和8年度中に、軟式野球クラブの町内大会出場を目指す。
- 大会情報の入手源については、引き続きスポーツ協会と連携し情報共有を図っていくほか、町外大会参加時には主催とのパイプづくりを行い、学校に頼らない情報源の確保を行っていく。
- 各競技種目の大会運営体制や参加条件、地域クラブの指導に関わる指導者の情報の把握及び整理を行い、登録料等、必要な経費があれば、予算を要求していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 令和6年10月以前の本地域クラブの活動は、スポーツに親しむことを主目的として各クラブ週1回3時間程度としていたが、会員の多様なニーズに応えるため、交流会や練習試合、大会等への参加等の特別活動も開催し、クラブの発展状況に応じて、週2回（通常活動1回、特別活動1回）の活動も取り入れていく。また、活動場所を町内中学校の施設限定としていたが、他市町に出向いての特別活動を実施する。
- 会員、保護者に対して年に2回のアンケート調査をアプリを使って行ってきたが、今後もアンケート調査を継続し、ニーズを把握しながら運営ができるようにする。
- 令和5年度から、町内中学校の入学説明会にて毎年地域クラブの説明会を開催している。令和7年度も継続して取組む予定である。

取組の成果

- 通常活動とは別に、特別活動を令和6年度（22回）の約3倍となる74回（交流会や練習試合45回、大会参加29回）実施することができた。そのうち、25回が他市町に出向いての特別活動となった。活動の詳細は、町ホームページ「ひがしうら地域クラブ」に掲載している。
- 会員、保護者に対して、9月14日（日）～9月23日（火）にアプリを使用したアンケート調査を実施した。その結果を「第1回ひがしうら地域クラブ代表者会」で提示し、今後の運営方針を決定していくための資料として活用した。令和8年3月にも2回目のアンケート調査を実施予定である。
- 令和8年1月22日（木）に北部中学校、令和8年1月23日（金）に東浦中学校、令和8年2月5日（木）に西部中学校の入学説明会に参加し、本クラブ及び本町の方針について周知を図った。

今後の取組における課題

- 来年度は夏季の通常活動を増やす予定であるため、特別活動の回数を精選するべきか検討する必要がある。
- 入学説明会で本クラブ等について説明できる時間が学校事情によって異なっていることが課題。

課題への対応方針

- 指導者（代表者）との連携を強化し、指導者報酬残高等の情報を適宜提供しながら、必要な活動を精選して取組む。
- 入学説明会については、早い段階で各中学校に相談して、地域クラブ活動への理解を深め、十分な説明時間を確保してもらえるように働きかける。



「ひがしうら地域クラブ」
町ホームページ 二次元コード

【URL】
<https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoikukikaku/gyomu/13106.html>

「ひがしうら地域クラブ」
町ホームページ URL

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 入会を希望する生徒及び保護者が、東浦町就学援助費事務取扱要綱の規定に定める就学援助の認定を受けている場合は、保護者からの申請により参加料の減額措置（1/2）を講じる。
- 改革推進期間の終了に伴い、参加料（月額1,000円）の見直しを検討する。
- 保護者の経済的負担を軽減するため、会員の活動時等におけるケガの保険については、東浦町が加入している社会活動用の保険で対応している。

取組の成果

- 参加料の減額措置については、サッカー、バレーボール、卓球、剣道、吹奏楽に参加している計8名の会員に実施した。
- 参加料の見直しについては、会員数が増加している（延べ数 令和5年：187名、令和6年：294名、令和7年：336名）ことや改革実行期間（前期・後期）が設定され、部活動の地域展開等推進事業等が開始されることや、独立行政法人スポーツ安全協会から採択を受けたスポーツ活動等普及奨励助成事業を活用した財源の確保を考慮したうえで、来年度は据え置きとした。

今後の取組における課題

- 昨年度までは、生涯学習を担当するスポーツ課・生涯学習課が地域クラブの所管をしていたため、参加料の減額措置を受けるためには、各家庭に「就学援助費受給認定証」のコピーと申請書を紙媒体で提出してもらっていた。今年度は、昨年度の運営方法を引き継いで運営したが、より多くの就学援助の認定を受けている家庭の生徒に入会してもらえるように、申請手続きの見直し・簡略化を図っていく。
- 部活動の地域展開等推進事業等の補助金が得られなくなった場合は、再度参加料の見直しを行う必要がある。

課題への対応方針

- 専用アプリからの入会申請時に参加料の減額希望があった場合、就学援助の認定確認は教育課内で直接できるため、「就学援助費受給認定証」のコピーの提出を廃止する。また、申請書については、電子フォームからの申請に変更し、保護者負担を軽減する。
- 部活動の地域展開等推進事業の補助金等を活用しながら、低廉な額の参加料で地域クラブを運営し、「新たな価値」の創造・普及や会員数のさらなる増加をねらう。その結果も鑑みながら、引き続き公的資金と受益者負担のバランスを検証していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 活動では原則学校施設を活用するため、各学校に何が備えられているかを把握し、指導者と情報共有したうえで、活動に必要な備品等については、教育委員会が学校と対話を行い地域クラブで借用している。
また、地域クラブで使用して良いものとそうでないものの線引きを行い、指導者へ周知している。
- 現在、地域クラブは教育委員会が運営するものだけであるが、要件を明確にしながら、地域の既存競技団体等を「認定地域クラブ」として認め、学校施設を有効活用する取組を行っていく。

取組の成果

- 各学校に何が備えられているか、活動に何が必要かを指導者とともに情報整理を行ったことで、支障なく活動が行えている。
また、あらかじめ学校側と対話することにより、部活動と地域クラブ間でのトラブルを避けることができた。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、改革実行期間が新たに設定されたことや国が認定要件の概要を示すという情報を得たため、国の方針等を確認してから令和8年度以降に検討することとした。

今後の取組における課題

- 今後、学校部活動が縮小していく中で、各施設に備えている部活動関連の備品・消耗品等の更新にかかる予算が減少していくと想定される。
特にボールなどの消耗品類については、消耗が激しい競技（主に卓球）においては今後の課題。
- 地域の既存競技団体が「認定地域クラブ」となることのメリットをどのように設定していくかが課題。現時点では、学校施設の優先利用を認めていくことを考えているが、本地域クラブも活動しており、使用できる施設には限りがある。そのため、認定できる種目が限られる等デメリットも生じる可能性があるため、検討が必要である。

課題への対応方針

- 今後減少していくと想定される部活動関連の備品・消耗品にかかる予算については、独立行政法人スポーツ安全協会の助成金や、企業版ふるさと納税など、多種多様な財源の研究・確保に努めていくほか、必要に応じて会員の月額参加料の値上げを検討していく。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、国の認定要件の概要と本町の目的（「新たな価値」の創出・普及）を照らし合わせながら検討を行うとともに学校開放（学校施設の地域住民等への開放）を所管する部署と協議をしながら、改革実行期間（前期）を目標として制度設計を行う方針である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 指導者養成講習会を年間2回（第1回：8月23日、第2回：2月7日）実施し、新たに指導者を15名（内スポーツクラブ10名）加えて、指導者数が計126名（内スポーツクラブ80名）となった。指導者全員が、会員に対する接し方や安全管理等の共通の知識・技能を身に付けていることや会員・保護者に行ったアンケート調査結果を代表者会で周知して活動方針に生かす等の取組を行ってきたことで、保護者・会員から指導者の指導が不適切等の問い合わせは、今年度も0件であった。
- 会員の多様なニーズに応えるために、通常活動とは別に、特別活動にも積極的に取組、令和6年度（22回）の約3倍となる74回（交流会や練習試合45回、大会参加29回）実施することができた。
- 参加料の見直しについては、会員数が増加していることや改革実行期間（前期・後期）が設定され、部活動の地域展開等推進事業等が開始されることや、独立行政法人スポーツ安全協会から採択を受けたスポーツ活動等普及奨励助成事業を活用した財源の確保を考慮したうえで、来年度は据え置きとした。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、改革実行期間が新たに設定されたことや国が認定要件の概要を示すという情報を得たため、国の方針等を確認してから令和8年度以降に検討することとした。

●成果の評価

- 指導者の質を保证するための指導者養成講習会や会員・保護者へのアンケート調査は、申請時の計画通りに実施することができた。保護者、会員からの指導や運営が不適切等の問い合わせは0件であったことから、安定した地域クラブ運営を継続して行うことができたと考えられる。
- 通常活動を原則としつつ、特別活動にも積極的に取組んできたことで、会員の多様なニーズに応じた活動を柔軟に提供できる環境が整ってきた。今年度は、活動の幅を広げるために可能な限り実施する方針で取組んできたが、今後は主目的である「新たな価値」の創出や受益者負担額を検証する観点から、通常活動と特別活動のバランスを検証していく。
- 参加料の見直しについては、保護者・会員に行ったアンケート調査結果からも、参加料を上げると競技的な成果を求められる傾向があることが分かったため、「新たな価値」の創出・普及を強化していくためには、現時点では据え置きとすることが有効だと判断した。

●今後に向けて

- 今年度は、会員の多様なニーズに幅広く応えるために特別な活動にも積極的に取組んできたが、特別な活動を増やすほどマルチに参加する会員やレクリエーション志向で参加する会員が減少することが分かった。よって、今後は特別な活動と通常活動のバランスを検証し、多様なニーズが共存できる地域クラブ活動環境を整えていきたい。
一方で、活動の幅を広げる分、指導者報酬等や備品・消耗品などの必要経費が増加していき、その分会員の月額参加費の値上げを検討しなければならない。
当町では、ひがしうら地域クラブが徐々に認識され始めた段階と認識しており、月額参加費が加入障壁とならないよう、活動の軌道に合わせてバランスを取っていく視点も大切にしていきたい。
- 「認定地域クラブ」要件の整備については、国の認定要件の概要と本町の目的（「新たな価値」の創出・普及）を照らし合わせながら検討を行い、改革実行期間（前期）を目標として制度設計を行っていきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果 ●参加者/関係者の声

「ひがしうら地域クラブ」の運営を開始してから、毎年年間2回程度（9月頃、3月頃）の会員・保護者向けのアンケート調査を実施している。

自由意見を含め、現在の活動内容に対する満足度や改善点、月額参加費等について調査を実施・集約を行い、その結果を「ひがしうら地域クラブ」代表者会の資料として作成・情報共有を行い、教育委員会と指導者間での意見交換や今後の運営方針決定の参考資料としている。

○ 令和7年度第1回「ひがしうら地域クラブ」代表者会資料→会員アンケート調査結果について【資料3】

「ひがしうら地域クラブ」推進協議会等の資料・会議録 町ホームページ URL

【URL】

<https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp/soshiki/kyoiku/kyoikukikaku/gyomu/12528.html>



「ひがしうら地域クラブ」推進協議会等
の資料・会議録
町ホームページ 二次元コード



The screenshot shows the official website of Higashiura Town. The header includes navigation links for various town services. The main content area features a breadcrumb trail leading to the 'Higashiura Regional Club' promotion committee documents and meeting minutes page. A large heading displays the page title. Below it, the update date is shown. A section highlights the '令和4年度第1回 東浦町部活動の地域移行推進協議会 会議録' (Meeting Minutes of the Regional Transition Promotion Committee for the 1st Meeting of the Higashiura Town Departmental Activities in the Reiwa 4th Year). Three PDF files are listed for download: the meeting minutes (442.9KB), document 1 (12.4MB), and document 2 (8.1MB). A sidebar on the right lists various town business items, including meetings, school education, roads, and regional club cultural activities.

2.実証内容と成果③

参考資料

【交流会や練習試合等】



【大会等への参加】



2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



令和4年度

令和5年度から令和7年度を改革集中期間（のち改革推進期間）とすることが国から示されたことから、町で検討会（町内中学校長及び部活動主任で構成）・協議会（関係団体及び公募委員で構成）を立ち上げ、検討を開始した。

その中で、町内3中学校長の決定として、令和5年9月から休日に部活動の練習を行わないという部活動改革が行われることを把握したため、休日の活動機会を確保するために、町直営の地域クラブを設立する方針で意見がまとまった。

また、各学校において存在する全ての種類の部活動全ての受け皿としてではなく、活動の体制が整ったものから地域クラブとして活動を開始する方針で決定した。

令和5年度

東浦町部活動の地域移行推進協議会を開催し、委員からの意見を踏まえながら、町直営のひがしうら地域クラブの制度設計を行った。

また、町内中学校で行われる部活動説明会や指導者説明会において、9月から開始するひがしうら地域クラブの説明を行った。

ひがしうら地域クラブの運営を始めた当初は、活動体制が整ったスポーツの5種目（柔道、剣道、サッカー、ハンドボール、バスケットボール）であったが、令和6年1月に軟式野球、バレーボール、卓球、吹奏楽を立ち上げて運営を開始した。

スポーツと文化芸術活動で9種類の活動となり、会員になればどの活動にも自由に参加することができることが最大の特徴となっている。

令和6・7年度

令和6年10月に総合文化を立ち上げて運営を開始した。

令和7年度からは、より現場の声を運営に反映させるために、意見聴取の場を協議会から代表者会に切り替えた。

町内3中学校から、「令和7年9月以降は夏の大会以外は部活動として参加しない」方針が示され、地域クラブ会員の交流会や大会参加等のニーズが高まっていくことが予想されたため、活動の拡大に取り組んだ。吹奏楽については、9回の強化練習や交流会、発表会を実施し、2回の大会参加を行った。その結果、4チームが県大会に進出することができた。総合文化は休止して運営体制の見直しに取組、令和8年2月から再始動した。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【新たな地域クラブ活動等の全体像】

スケジュール（イメージ図）

	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)
教育委員会	「ひがしうら地域クラブ」拡充・活動拡大（交流会・大会参加等の拡充）の推進準備						「ひがしうら地域クラブ」会員を多世代に拡充		
						（地域のスポーツ・文化芸術団体等）認定地域クラブ活動の選定・活動支援・大会等への参加規程などの情報提供			
						運営管理の拡充（大学・企業等への委託、連携、協力）or専門部局の設立			
ひがしうら 地域クラブ	休日のスポーツ・文化芸術活動（誰でも活動に親しめる活動）						「新たな価値観」のさらなる普及 マルチ活動・多世代交流・引退の伴わない活動 等		
	会員のニーズに合わせた活動の発展（交流会・練習会・大会参加等含）								
	・新規クラブの設立 （試行的に） ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習	・新規クラブの設立 ・申込、支払い、連絡アプリ導入 （試行的に） ・他チーム等との練習試合 ・高等学校等との合同練習	・機構改革による担当課変更 ・保険適応範囲の拡大（会員） ・中学生（他チーム）との交流 ・小学生、高校生等の他世代との交流 ・大会等への参加（希望制） ・地域での発表会等への参加 ・総合文化クラブの見直し ・参加料の見直し	・中学生（他チーム）との交流 ・小学生、高校生等の他世代との交流 ・大会等への参加（希望制） ・地域での発表会等への参加 ・総合文化クラブの安定的運営	・中学生（他チーム）との交流 ・小学生、高校生等の他世代との交流 ・大会等への参加（希望制） ・総合文化クラブの拡充 ・地域クラブのOB・OGを指導者 に取り込む。	・運営管理団体の選定or専門部局 設立の検討 ・中学生（他チーム）との交流 ・小学生、高校生等の他世代との 交流 ・大会等への参加（希望制） ・総合文化クラブの拡充 ・地域クラブのOB・OGを指導者 に取り込む。 ・参加料の見直し	・運営管理団体の選定or専門部局 設立の検討 ・会員を多世代に拡充 ・他団体との交流 ・大会等への参加（希望制） ・総合文化クラブの拡充 ・部活動引退後の生徒に向けた募 集案内を配信 ・地域クラブのOB・OGを指導者 に取り込む。	・運営管理団体の選定or専門部局 設立の検討 ・会員を多世代に拡充 ・他団体との交流 ・大会等への参加（希望制） ・総合文化クラブの拡充 ・部活動引退後の生徒に向けた募 集案内配信 ・地域クラブのOB・OGを指導者 に取り込む。	・運営管理団体の選定or専門部局 設立 ・会員を多世代に拡充 ・他団体との交流 ・大会等への参加（希望制） ・総合文化クラブの拡充 ・吹奏楽クラブの統合 ・部活動引退後の生徒に向けた募 集案内配信 ・地域クラブのOB・OGを指導者 に取り込む。 ・参加料の見直し
地域のスポーツ団体 文化芸術団体等への 働きかけ	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・大会参加規程等の情報提供	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・合同練習会等での交流 ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート（地域 移行部活動枠で出場を希望する 団体があった場合）	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町認定地域クラブ団体活動 の選定（種目限定） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町認定地域クラブ団体活動 の選定（種目限定） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町認定地域クラブ団体活動 の選定（種目限定） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町公認団体の認定（種目拡 充） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町公認団体の認定（種目拡 充） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート	・中学生受け入れ協力要請 ・「aispo!Do!」への登録要請 ・「まなびの森ひがしうら」への登録 要請 ・東浦町公認団体の認定（種目拡 充） ・活動支援（活動場所等） ・大会参加規程等の情報提供 ・大会等の参加へのサポート

第1期(改革推進期間)

第2期(改革実行期間前期)

第3期(改革実行期間後期)